Anritsu Advancing beyond

# 2027年3月期第2四半期 IRミーティング資料

アンリツ株式会社

2026年11月

東証 プライム
証券コード：6754
https://www.anritsu.com

# 注　記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、新たな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

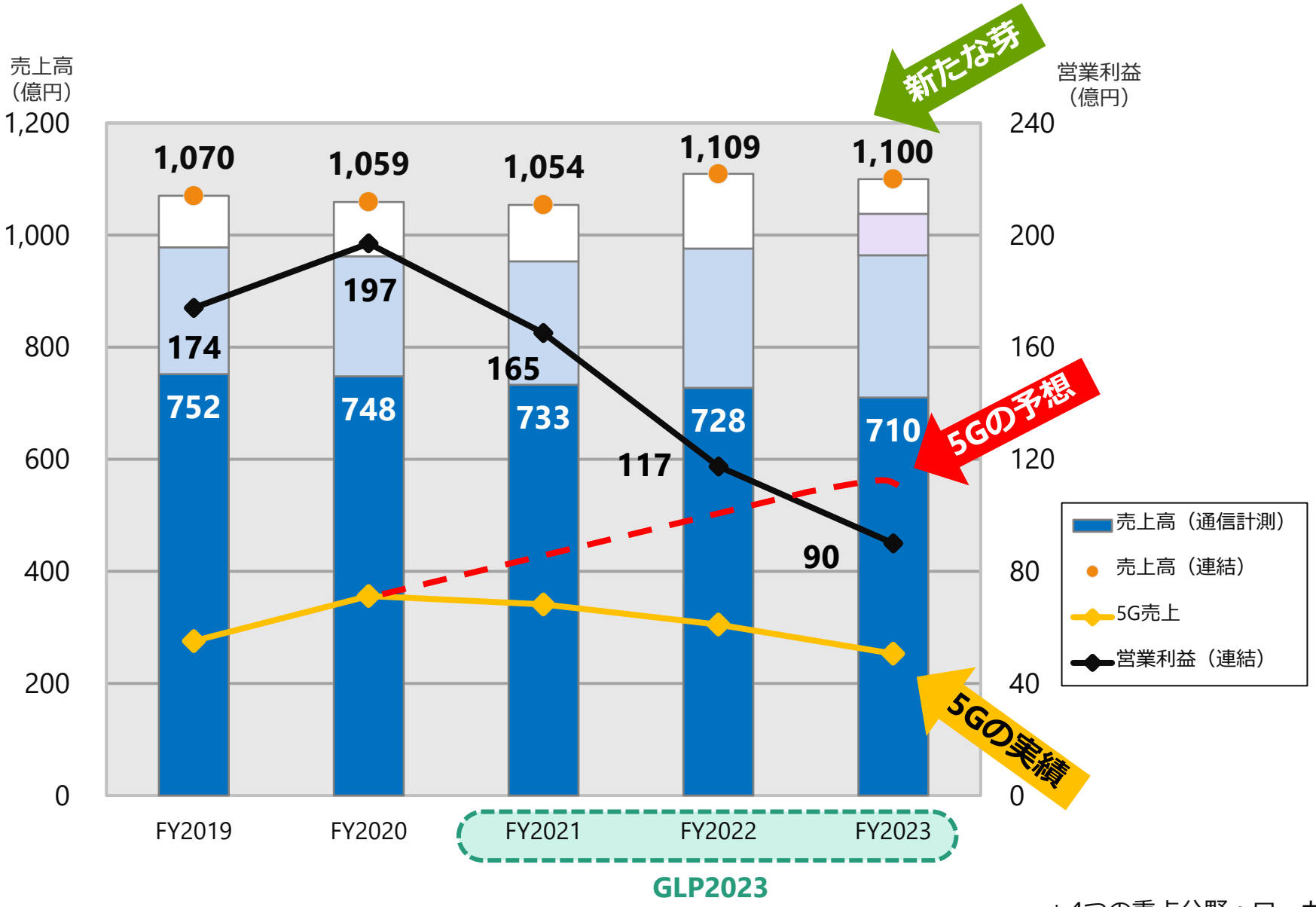

Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 目　次

1. 中期経営計画 GLP2026/FY2030の目指す姿
2. 事業概要
3. 通信計測事業
4. PQA事業
5. 環境計測事業
6. 2027年3月期第2四半期 連結決算概要


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-1. 中期経営計画（GLP2023）レビュー




| 項目 | 成果 |
|---|---|
| 財務 | 売上1,100億円<br>営業利益90億円と<br>数値目標は未達も、<br>株主還元は計画通り実行<br>（配当性向：54%、<br>総還元性向：87%） |
| 重点分野＊ | 高砂製作所のM&Aにより<br>EV/電池試験市場へ参入 |
| 通信計測 | 5G市場の縮小と世界的な<br>インフレ圧力が続いたが、<br>生成AIの急拡大による<br>データセンタ高速化需要<br>を獲得 |
| サステナビリティ | 女性管理職比率：12.1%<br>（1.3ポイント上昇） |

＊4つの重点分野：ローカル5G、EV・電池、医療・医薬品、光センシング


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-2. 中期経営計画（GLP2026）の基本方針

1. 成長投資に400億円以上（M&A+設備投資）
2. ROE≧10%を安定的に達成する事業ポートフォリオの構築
3. 2026年度の営業利益の25%を通信計測以外で創出
4. 新領域ビジネスの人材強化、全社での人材育成体制を構築
5. 事業活動における資源循環(サーキュラーエコノミー)の実現
6. 株主還元では配当性向50%以上を目指す


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-3-1. GLP2026とFY2030の目指す姿

Anritsu
Advancing beyond

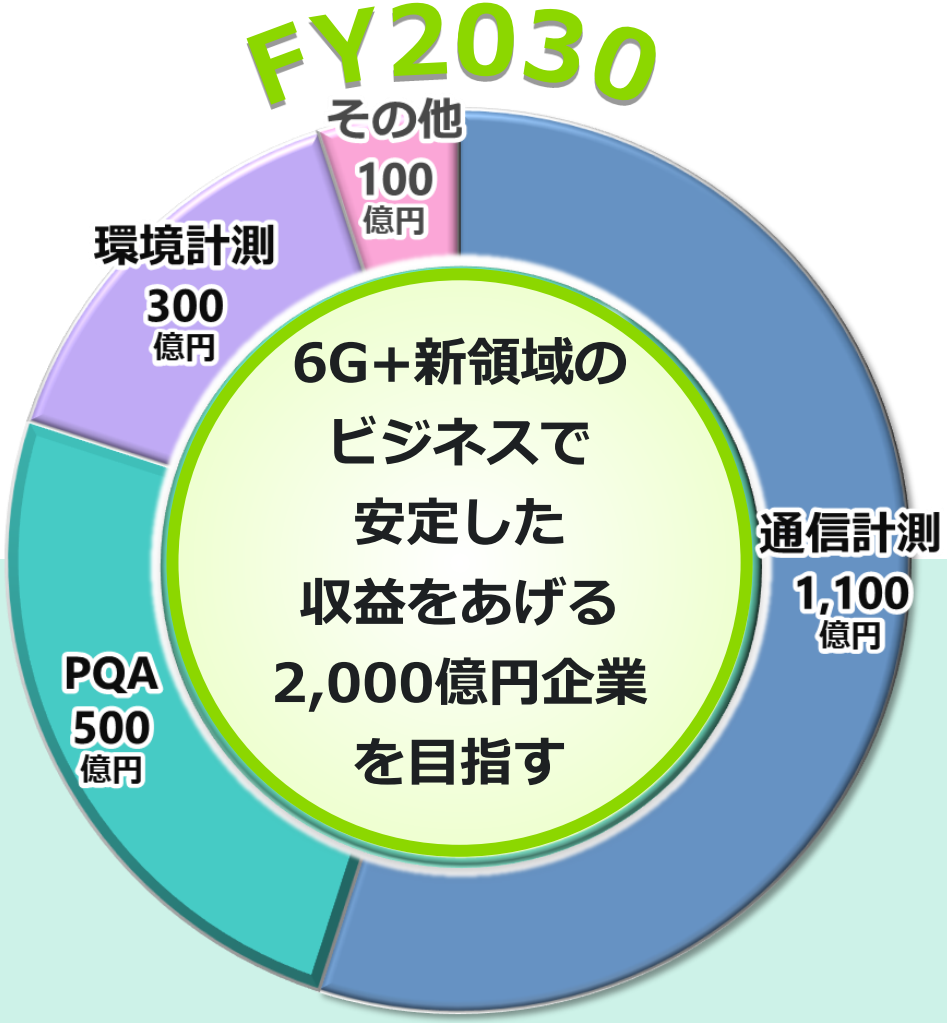
## 「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。




＊2026年10月29日発表の数値に更新


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-3-2. FY2030の目指す姿




**売上高 2,000億円**

**営業利益 400億円**

**営業利益率 20%**

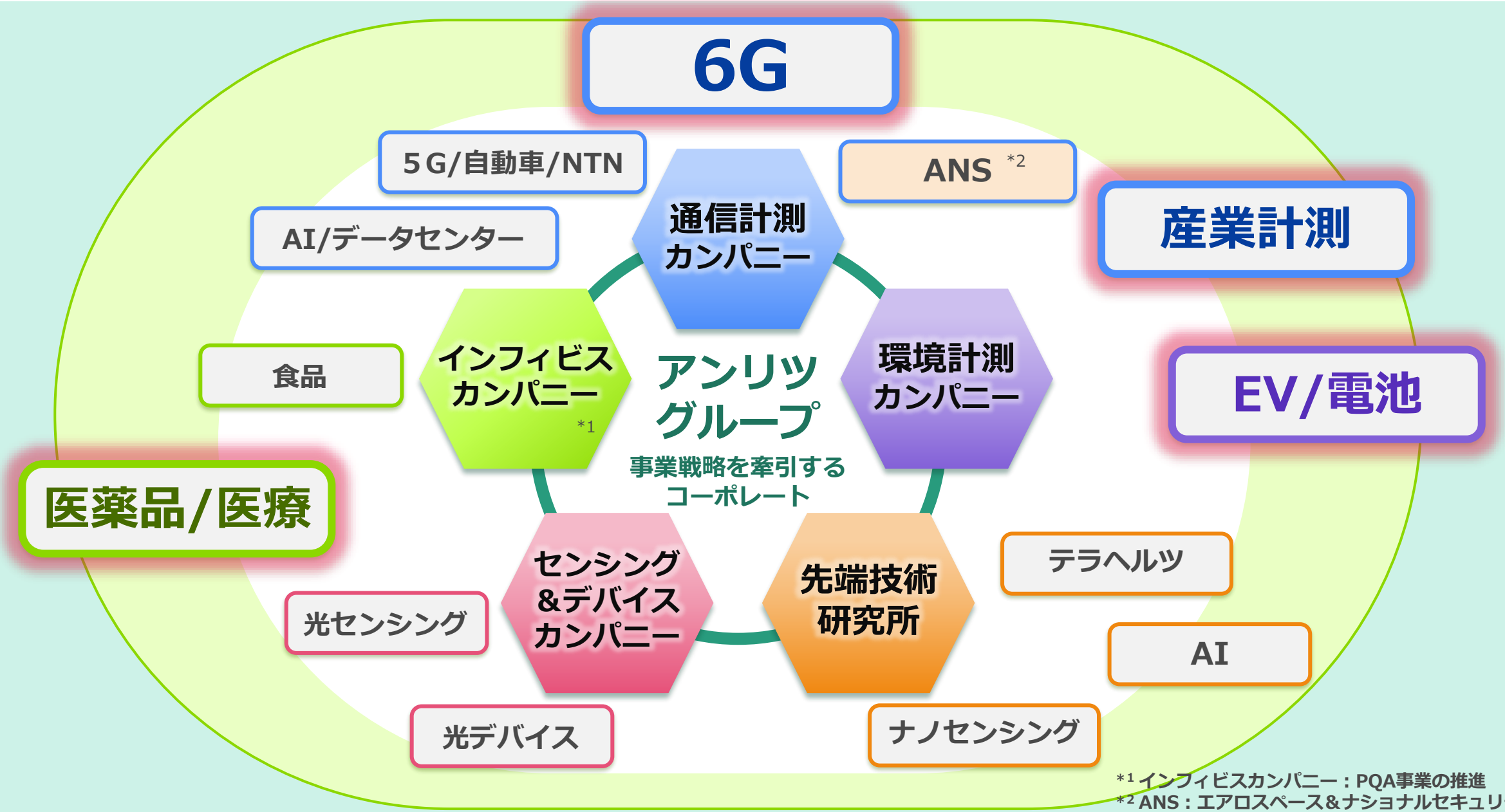
**通信計測成長ドライバ**
- 6G、IOWN
- 5G利活用
  自動運転、スマートシティ
  スマートファクトリー、
  メタバース、衛星通信
- O-RAN、V-RAN
- 生成AIによる
  ネットワーク高速化

**PQA成長ドライバ**
- 食品市場での
  グローバル事業拡大
- 医薬品市場への浸透
- AIを活用した
  品質検査ビジネス

**環境計測成長ドライバ**
- EV・電池、
  社会インフラの脱炭素化
- 産業DX、ローカル5G、
  スマートファクトリー
- 社会インフラのスマート化
- グローバル展開


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-3-3. GLP2026 6Gと3つの新領域ビジネス




*1 インフィビスカンパニー：PQA事業の推進
*2 ANS：エアロスペース&ナショナルセキュリティ


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-3-4. 6Gと新領域ビジネスの成長をグループ横断で加速

## 6G

**6Gで先行。
要素技術、
キーデバイスで差別化**

ビジネスオーナ — 通信計測カンパニー

300GHz要素技術 — 先端技術研究所

キーデバイス — センシング&デバイスカンパニー

## EV/電池

**販売と製造で通信計測事業がグローバルに協力。
成長を加速**

ビジネスオーナ — 環境計測カンパニー

販売・製造協力 — 通信計測カンパニー

## 産業計測

**通信計測事業と環境計測事業で通信以外の産業に汎用計測器を拡販**

ビジネスオーナ — 通信計測カンパニー

販売協力 — 環境計測カンパニー

## 医薬品/医療

**インフィビスとセンシング&デバイスは光センシング技術等を使い、医薬品、医療分野開拓**

ビジネスオーナ — インフィビスカンパニー

光センシング — センシング&デバイスカンパニー

*インフィビスカンパニー：PQA事業


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-4-1. 売上高・営業利益計画（1/2）

Anritsu Advancing beyond

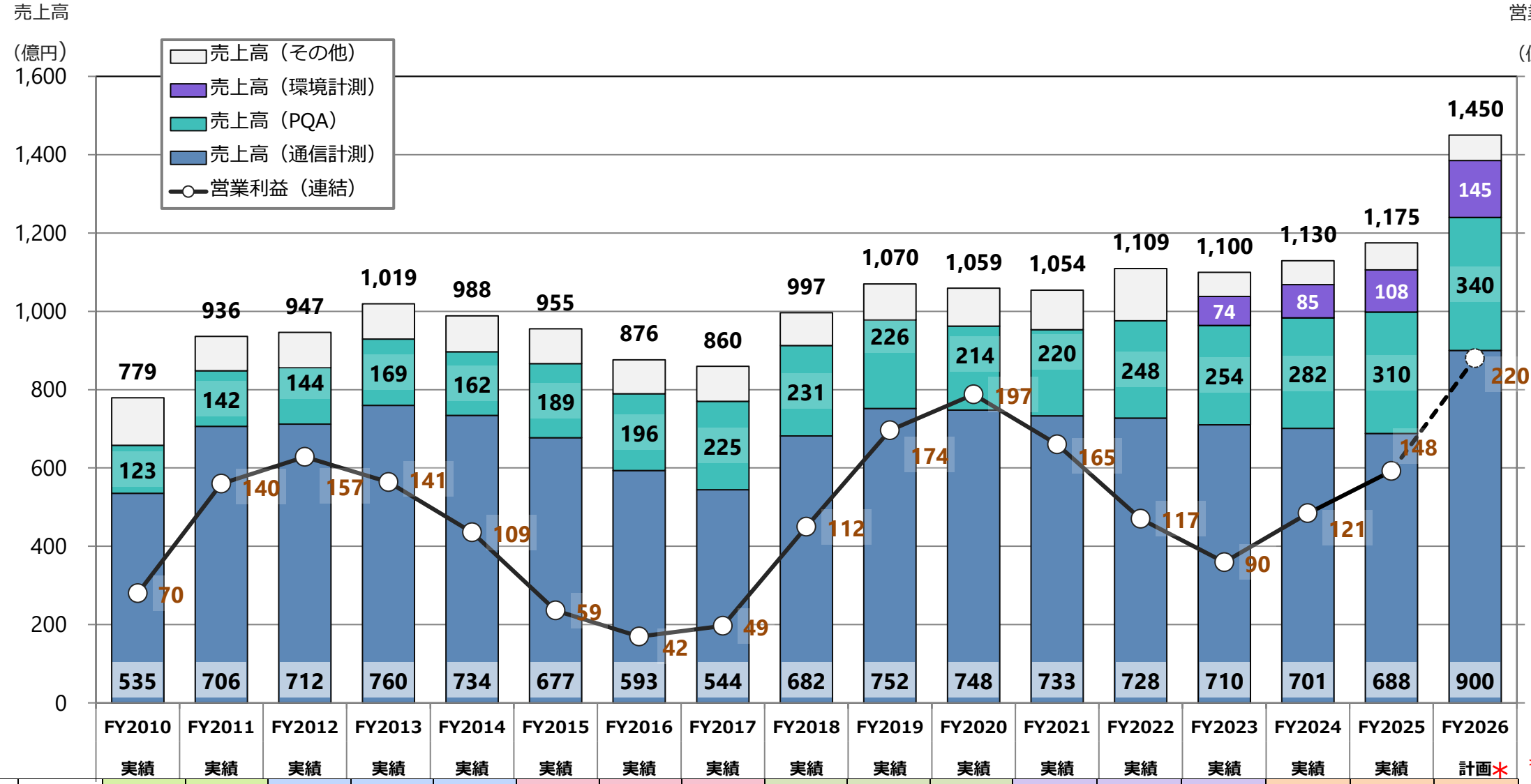
**修正版**

| 指標 | | FY2024実績 | FY2025実績 | FY2026 当初計画 | FY2026 最新計画※1,2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | | 1,130 億円 | 1,175 億円 | 1,400 億円 | 1,450 億円 |
| 営業利益 | | 121 億円 | 148 億円 | 200 億円 | 220 億円 |
| 営業利益率 | | 11 % | 13 % | 14 % | 15 % |
| 当期利益 | | 93 億円 | 117 億円 | 150 億円 | 160 億円 |
| ROE | | 7.4 % | 9.1 % | 12 % | 12 % |
| 通信計測事業 | 売上高 | 701 億円 | 688 億円 | 900 億円 | 900 億円 |
| | 営業利益 | 84 億円 | 108 億円 | 150 億円 | 200 億円 |
| | 営業利益率 | 12 % | 16 % | 17 % | 22 % |
| PQA事業 | 売上高 | 282 億円 | 310 億円 | 300 億円 | 340 億円 |
| | 営業利益 | 28 億円 | 33 億円 | 36 億円 | 42 億円 |
| | 営業利益率 | 10 % | 11 % | 12 % | 12 % |
| 環境計測事業 | 売上高 | 85 億円 | 108 億円 | 130 億円 | 145 億円 |
| | 営業利益 | 9 億円 | 9 億円 | 14 億円 | △12 億円 |
| | 営業利益率 | 11 % | 8 % | 11 % | - |

FY2026の計画は　2026年10月29日発表の数値に更新しております※1：FY2026想定為替レート　：1米ドル150円、1ユーロ175円


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-4-2. 売上高・営業利益計画（2/2）




＊2026年10月29日発表の数値に更新

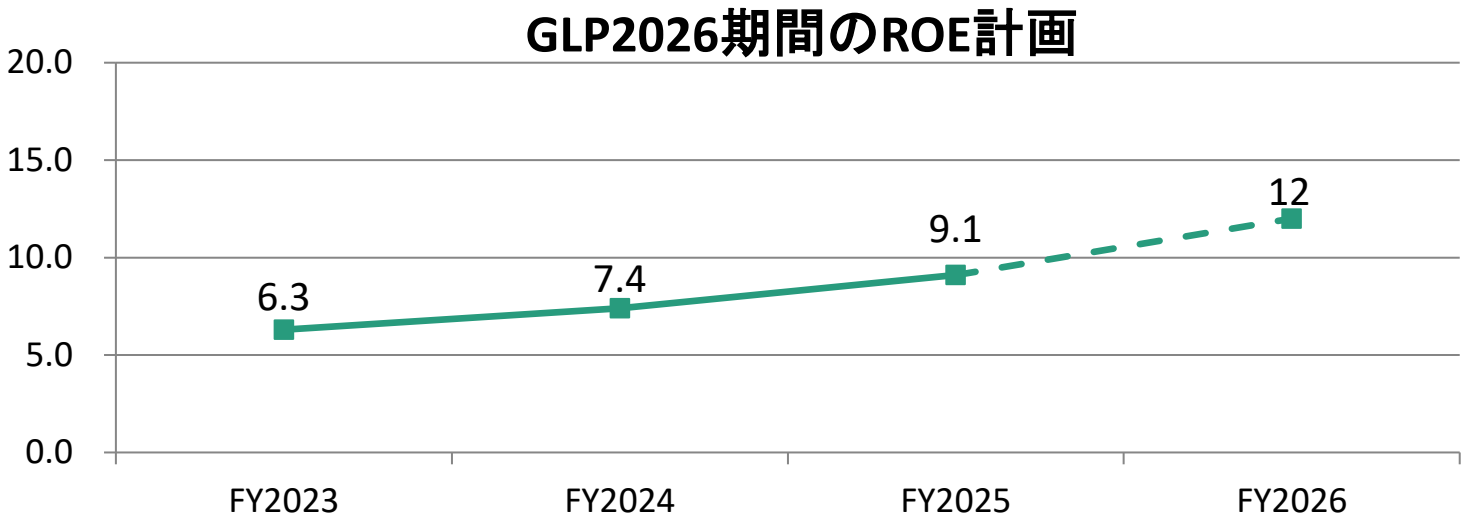
| | | FY2010 実績 | FY2011 実績 | FY2012 実績 | FY2013 実績 | FY2014 実績 | FY2015 実績 | FY2016 実績 | FY2017 実績 | FY2018 実績 | FY2019 実績 | FY2020 実績 | FY2021 実績 | FY2022 実績 | FY2023 実績 | FY2024 実績 | FY2025 実績 | FY2026 計画＊ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 営業利益率 | 連結 | 9% | 15% | 17% | 14% | 11% | 6% | 5% | 6% | 11% | 16% | 19% | 16% | 11% | 8% | 11% | 13% | 15% |
| | T&M | 9% | 20% | 21% | 17% | 12% | 7% | 4% | 3% | 14% | 20% | 24% | 21% | 15% | 11% | 12% | 16% | 22% |
| | PQA | 5% | 4% | 6% | 7% | 5% | 6% | 7% | 9% | 7% | 6% | 6% | 5% | 5% | 5% | 10% | 11% | 12% |
| GLP計画 | | GLP2012 | | GLP2014 | | | GLP2017 | | | GLP2020 | | | GLP2023 | | | GLP2026 | | |


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-5-1. 財務戦略

1.　株主資本コスト（７%）を上回るROEの実現

企業価値KPI ROE≧12%




2.　キャピタルアロケーションの最適化

500億円以上の営業CFに加えて、資産効率性の向上と強固な財務体質を活かした資金調達によりキャッシュを創出し、新領域のビジネスを推進するために400億円以上の成長投資を行います。株主還元については、配当は連結配当性向50%以上を目標とし、自己株式の取得は必要に応じて機動的に実施致します。

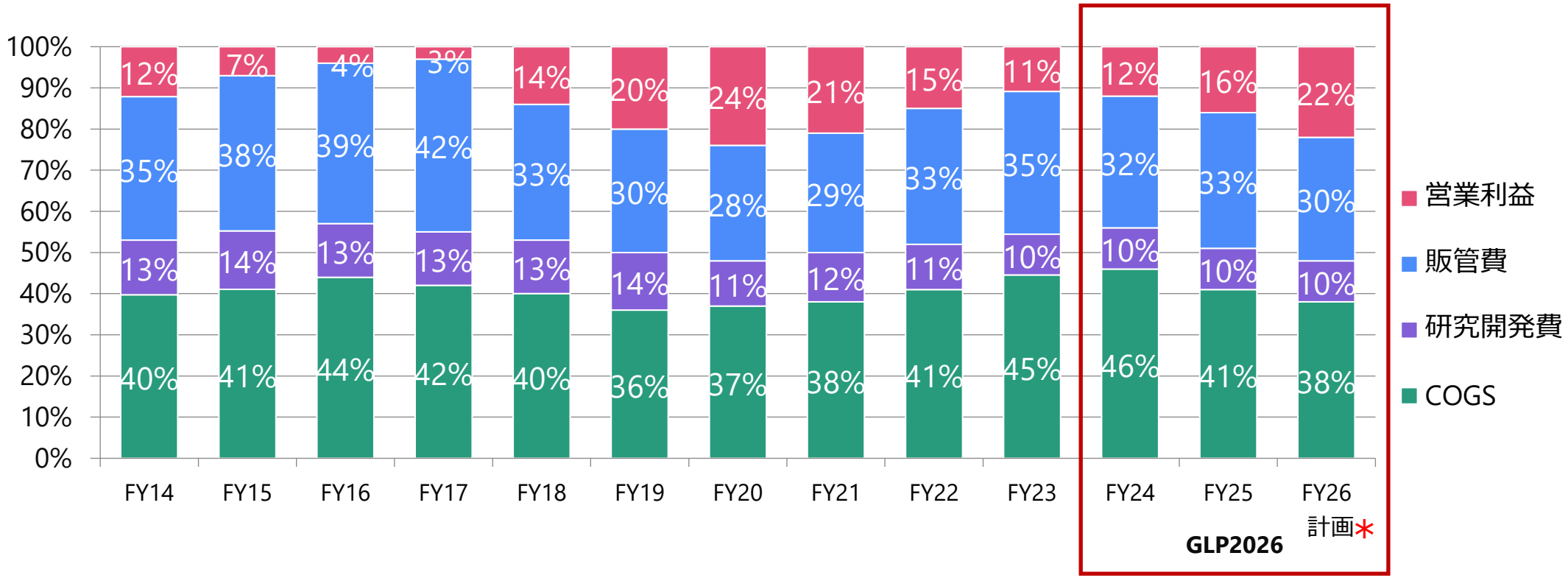
GLP2026期間の
キャピタルアロケーション





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-5-2. GLP2026：通信計測事業　収益構造モデル




**コスト構造の改善に向けて**

- 高付加価値ソリューションの投入(サポートサービス、ソフトウエア)
- 開発 ROI & ROIC マネジメントの徹底(*1)
- 競争力の維持・向上：顧客動向の変化に対応した組織体制と人的資源の最適配分

*1　KPI：開発ROI（売上総利益／開発投資額）≧ 4.0

＊2026年10月29日発表の数値を反映


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-6-1. 人材戦略

| | |
|---|---|
| 経営ビジョン | 「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。 |
| 経営戦略 | 既存事業の枠を超え、FY2030に売上高2,000億円、営業利益率20%を目指す<br>新領域ビジネスの開拓 / 強いものづくり / 働き方改革 |
| 人材ビジョン | 「会社と多様な従業員がベクトルを合わせ、事業(社会)貢献意識を持ち、仕事と私生活のバランスを取りながら生き生きと働いている」 |
| 人材課題 | • 経営戦略に連動した人材確保と配置<br>• 年齢別人員構成：FY2030に向けコア・中堅層の不足、シニア層の活用<br>• 経営戦略実現に向けた職場風土醸成：成長・挑戦/多様性受容/仕事と生活のバランス |

## ■ Initiative

### ●成長事業・重点領域の人材確保と育成

✓経営戦略からトップダウンで人員計画を作成し、全体最適で戦略的な人員確保/配置/教育を行う
✓経営層、経営戦略部門、人事部門によるレビュー体制の確立（人財戦略レビュー）
✓A-SKILLsを立ち上げ、カンパニー横断での人材育成体制を構築

### ●若年/リーダー層の積極採用と育成、およびシニア層活用強化

✓新卒/キャリア問わず、若年層/コア人材の積極的な獲得を目指す
✓配置/職種転換の推進やリスキリング等の継続的な成長支援によるシニア層活用強化

### ●経営/人材ビジョン実現に向けた職場風土醸成

**成長・挑戦**
✓自らの壁を取り払い、新たな領域に好奇心を持って取り組む人材、ステークホルダーや他社と共に社会課題の解決を目指す人材を育成する

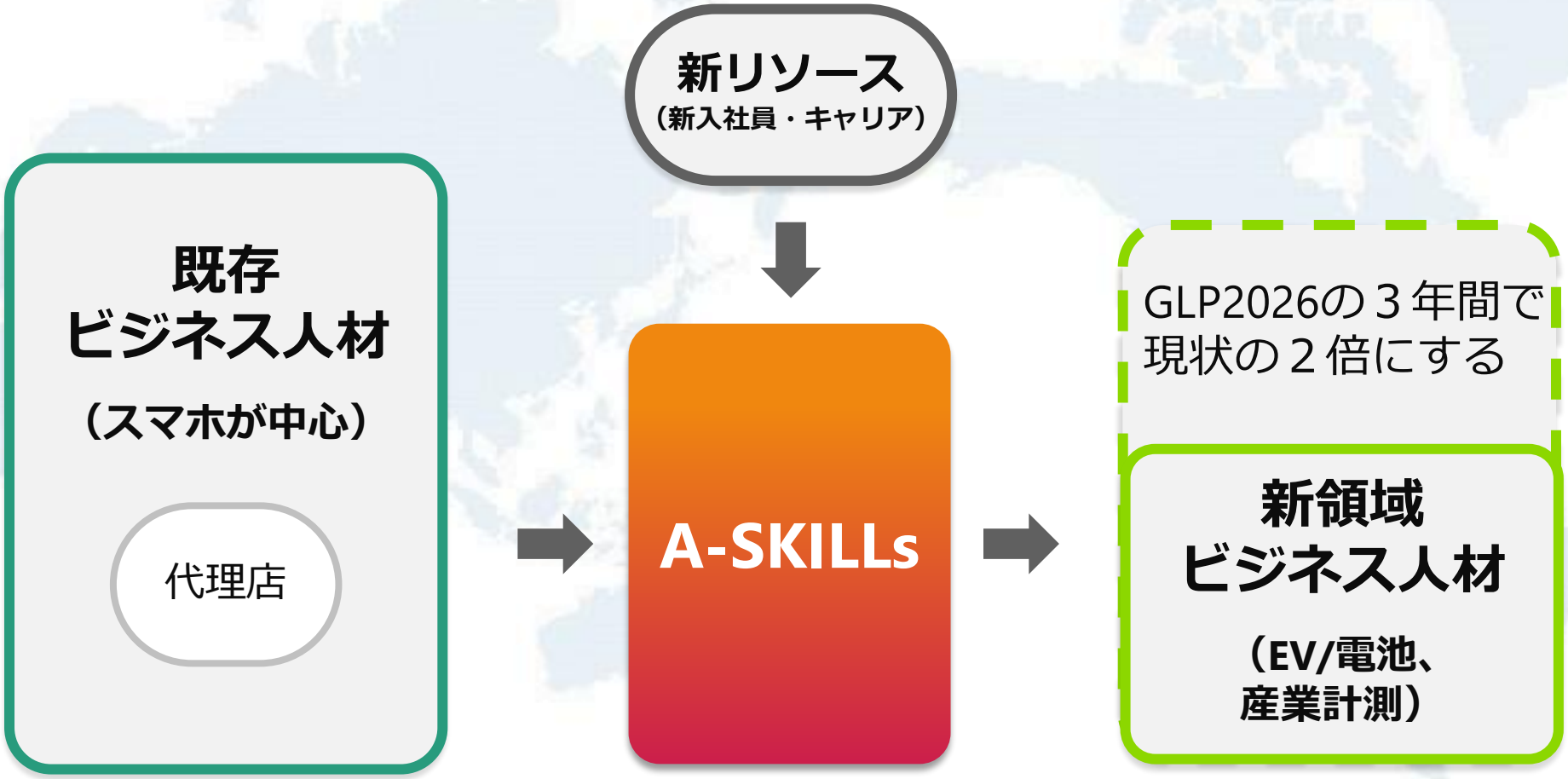
**多様性の受容**
✓価値観や考え方も含め多様性を持つバラエティに富んだ人材が混ざり合い、多様な視点と強みを活かし新たな価値を創造する

**ライフワークバランス、就業環境整備**
✓「生活と仕事のバランスを考えて、働きやすく人生を楽しめる会社」と「労働生産性が高く働きがいがある会社」の両立に向けた制度・環境を整備する


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# Anritsu Skills Training Center (A-SKILLs)をスタート

- 新領域ビジネスの“技術”と“販売力”のスキルを身に着ける
- EV/電池計測、産業計測分野の人材をグローバルで増強





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 1-7. サステナビリティ目標の状況

| | KPI | GLP2026の目標 | 2025年度実績 | 進捗 |
|---|---|---|---|---|
| E 環境 | ● 温室効果ガス（Scope1+2） | 2021年度比 23%以上削減<br>・2030年度目標：2021年度比42%削減 | 31.0%削減 | ◎ |
| | ● 温室効果ガス（Scope3） | 2019年度比 17.5%以上削減<br>・2030年度目標：2019年度比27.5%削減 | 26.6%削減 | ◎ |
| | ● 自家発電比率(PGRE 30) *1 | 14%以上（2018年度電力消費量を基準）<br>・2030年度目標：30%程度まで高める | 13.0% | ○ |
| S 社会 | ● 女性の活躍推進 | 女性管理職比率15%以上 | 13.5%（グローバル、2026年4月1日） | ○ |
| | ● 障がい者雇用促進 | 職域開発による法定雇用率2.7%達成 | 障がい者雇用率2.8%（2026年3月末） | ◎ |
| | ● 働きがいのある労働環境の実現 | エンゲージメント調査の働きがいポジティブ回答率：80%以上 | 74.5% | ○ |
| | ● サプライチェーンDDの強化 | 10社/年以上 | 12社実施 | ◎ |
| | ● CSR調達に係るサプライヤへの情報発信3回/年以上、教育2回/年以上 | | 情報発信3回、教育1回実施 | ○ |
| G ガバナンス | ● 取締役会の多様性の推進 | 女性取締役比率20%以上 | 22%（2026年6月25日以降） | ◎ |
| | ● 取締役会における重要経営課題の集中討議 | 6回/年 | 6回実施 | ◎ |

*1 PGREは、Private Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年ごろと自家発電比率目標値30%程度を意味します。

# 2. 事業概要


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 2-1. 事業概要

Anritsu
Advancing beyond

## 通信計測事業

**ネットワーク社会の進化・発展**



- **ネットワーク・インフラ市場**
  ：データセンター、光/無線NW
- **モバイル市場** ： 5G/6G、5G利活用
- **エレクトロニクス市場** ：電子部品、無線設備、研究開発

## PQA事業

**食と医薬品の安全・安心**



- 食品検査市場
- 医薬品検査市場

## 環境計測事業

**脱炭素社会を目指して**



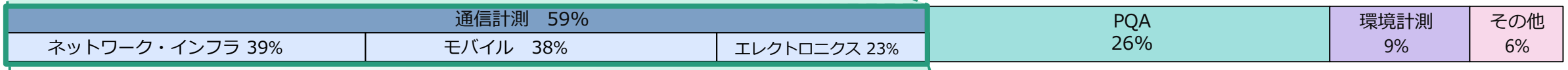
- EV/電池市場
- 航空宇宙・再エネ市場
- 社会インフラIT市場

## その他

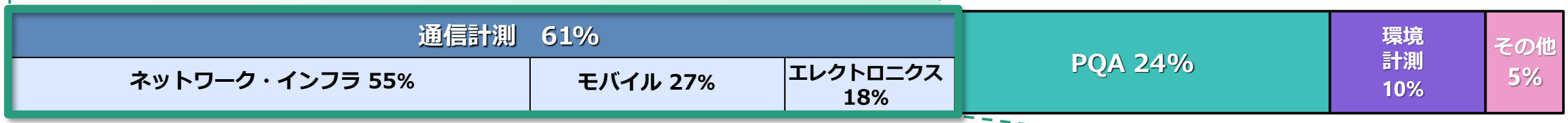


- センシング&デバイス
- その他

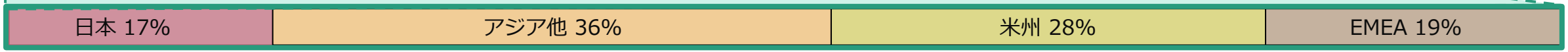
**（セグメント別売上比率）**
**2026年3月期 実績（連結）： 1,175億円**




**2027年3月期（4-9月）実績（連結）： 693億円**




**（通信計測事業 地域別売上比率）**
**2026年3月期 実績**




**2027年3月期 （4-9月） 実績**





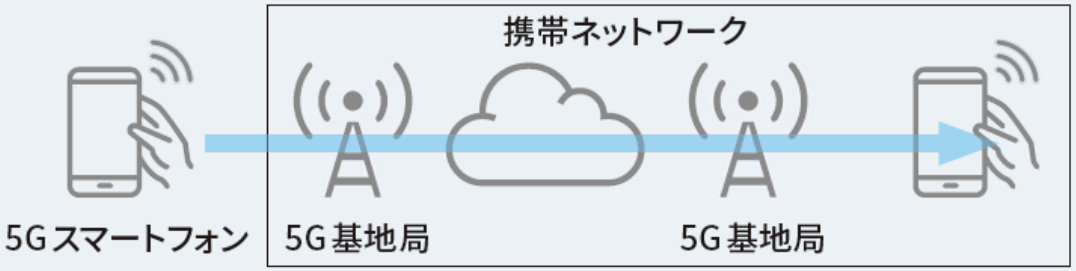
Copyright© ANRITSU CORPORATION

## 提供するソリューション

### スマートフォン開発

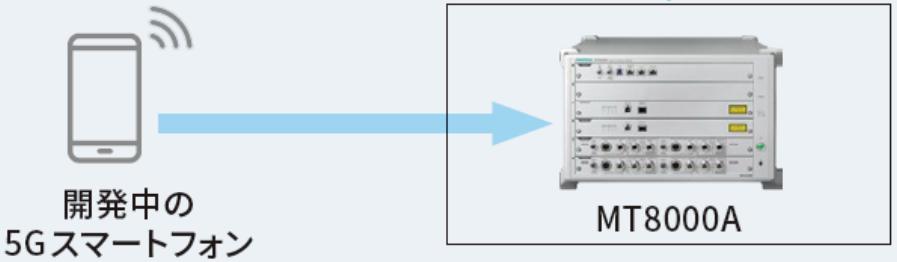
アンリツの計測器が擬似的な基地局となり、スマートフォンと接続して無線および通信プロトコルの動作のデバッグを実施する環境を提供しています。

●実環境




擬似化

●試験環境




### 光トランシーバーの製造

生成AIの普及によるデータセンターの新設・大容量化に伴い、通信の高速化が急速に進んでいます。

アンリツは100GE/400GE/800GE光トランシーバーの量産向けに性能評価の環境を提供しています。




＊ 出典：Yole社の市場調査レポートより


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 2-3. PQA 事業



KXH7534ASGCD

## 提供するソリューション

### 食の安全・安心

検査品の内部を透過するX線による検査であり、異物検出用に開発した深層学習型AIを搭載することで、より確実で高度な異物検出を可能としています。さまざまな食品の生産ラインにおいて、異物だけでなく、検査品の形状不良や数量不足の検査が可能です。

**鶏肉の残骨検査**



**異物検査**

食品などに含まれる石やプラスチック、残骨などを検出します。




**欠品検査**

お弁当のおかずに欠品がないか検査します。

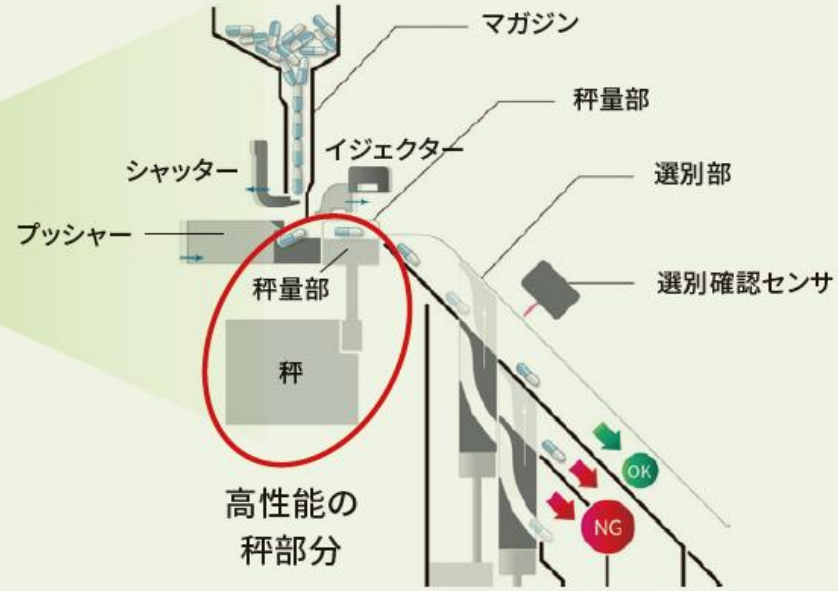
### 医薬品市場向け

カプセル医薬品の重量を高速・高精度で全数検査します。高性能の秤は、業界最高ランクの測定精度※を実現しており、医薬品の製造効率の向上に貢献します。

※ 当社調査結果による



KWS9002AP



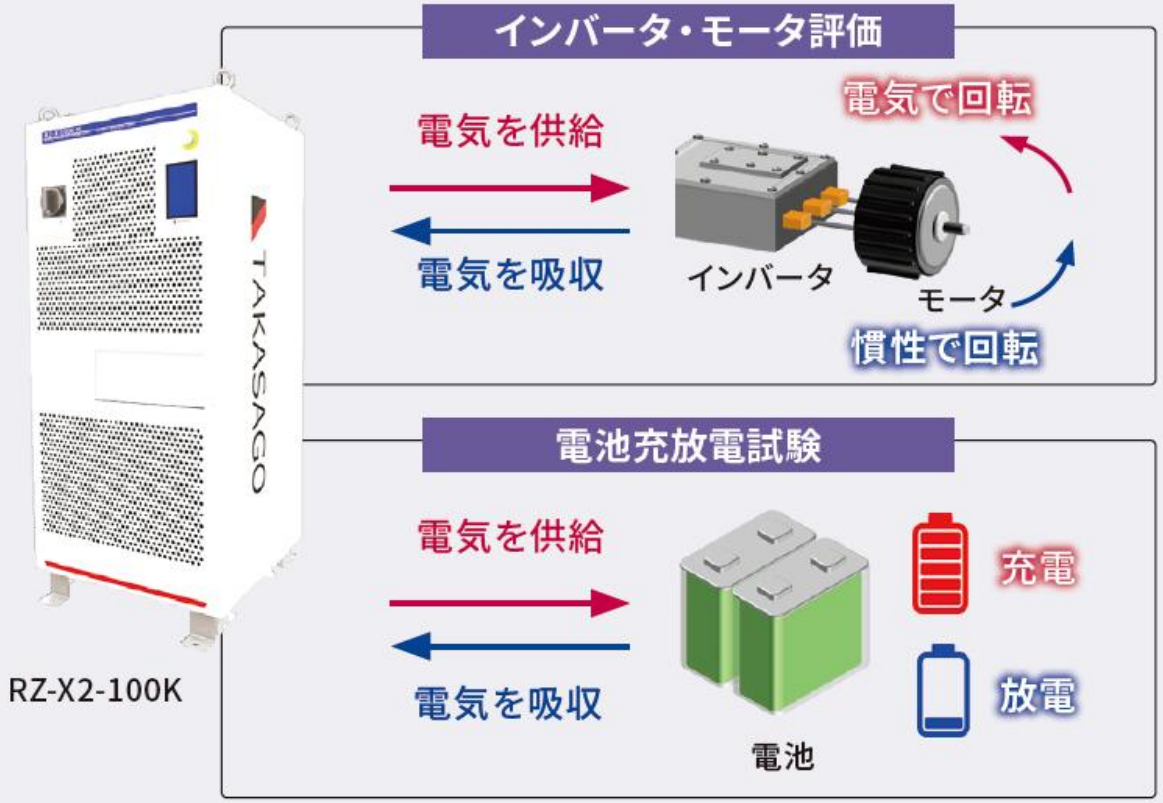


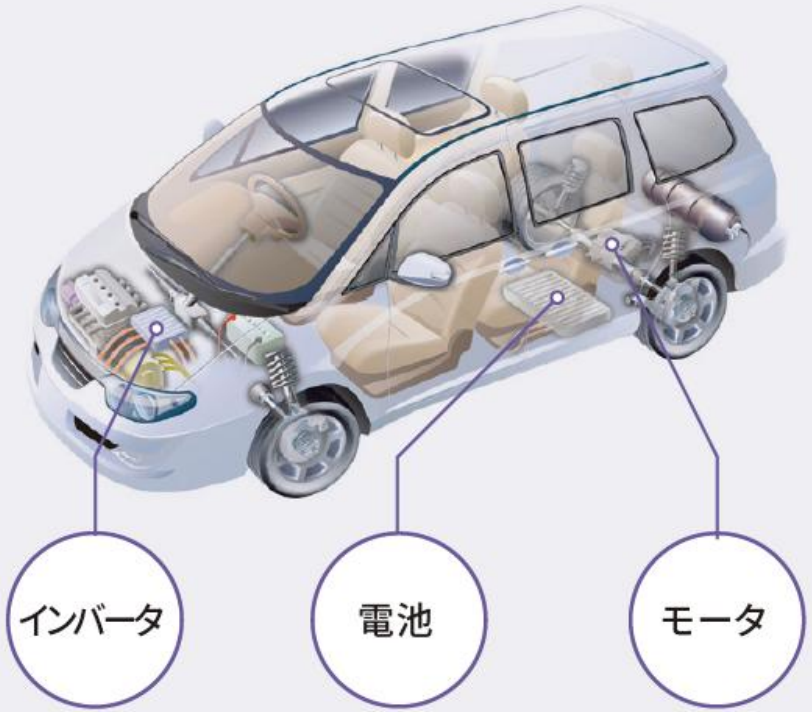
Copyright© ANRITSU CORPORATION

## 提供するソリューション

### EVの駆動系や電池の試験をサポートする高性能電源の提供

数百ボルトにもなるEVの駆動系の試験用高電圧電源を、これまで培った高精度・高速応答・高安定・高効率・電力制御技術により実現しました。EVで使われる電池やモータなどを安全・安心に利用するための試験をサポートしています。





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 2-5. センシング&デバイス事業

## 提供するソリューション

光・超高速電子デバイスの開発・製造とその利活用技術の開拓により、強靭な通信インフラの構築や安全で精密な眼科検診などを実現することで、通信をはじめ幅広い分野に貢献しています。

### 産業用光センシング

各種産業用途に最適な光源を提供します。



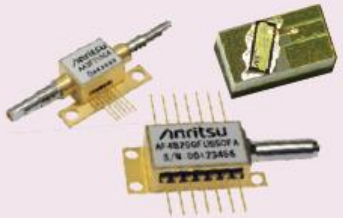


SLD、波長掃引光源、
DFB-LD（分布帰還型レーザ）

### 通信用光デバイス

長距離伝送に最適な光信号の増幅器を提供します。





Pump LD、SOA（半導体
光増幅器）、Gain Chip

### 医療用光センシング

網膜断面の観測や眼軸長測定に最適な光源を提供します。

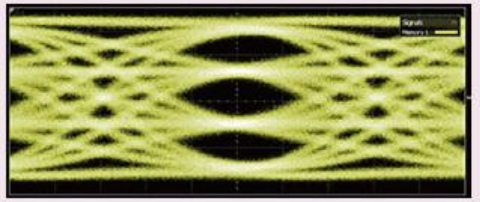




SLD、波長掃引光源

### 通信用電子デバイス

通信の進化を支えるドライバー、アンプを提供します。





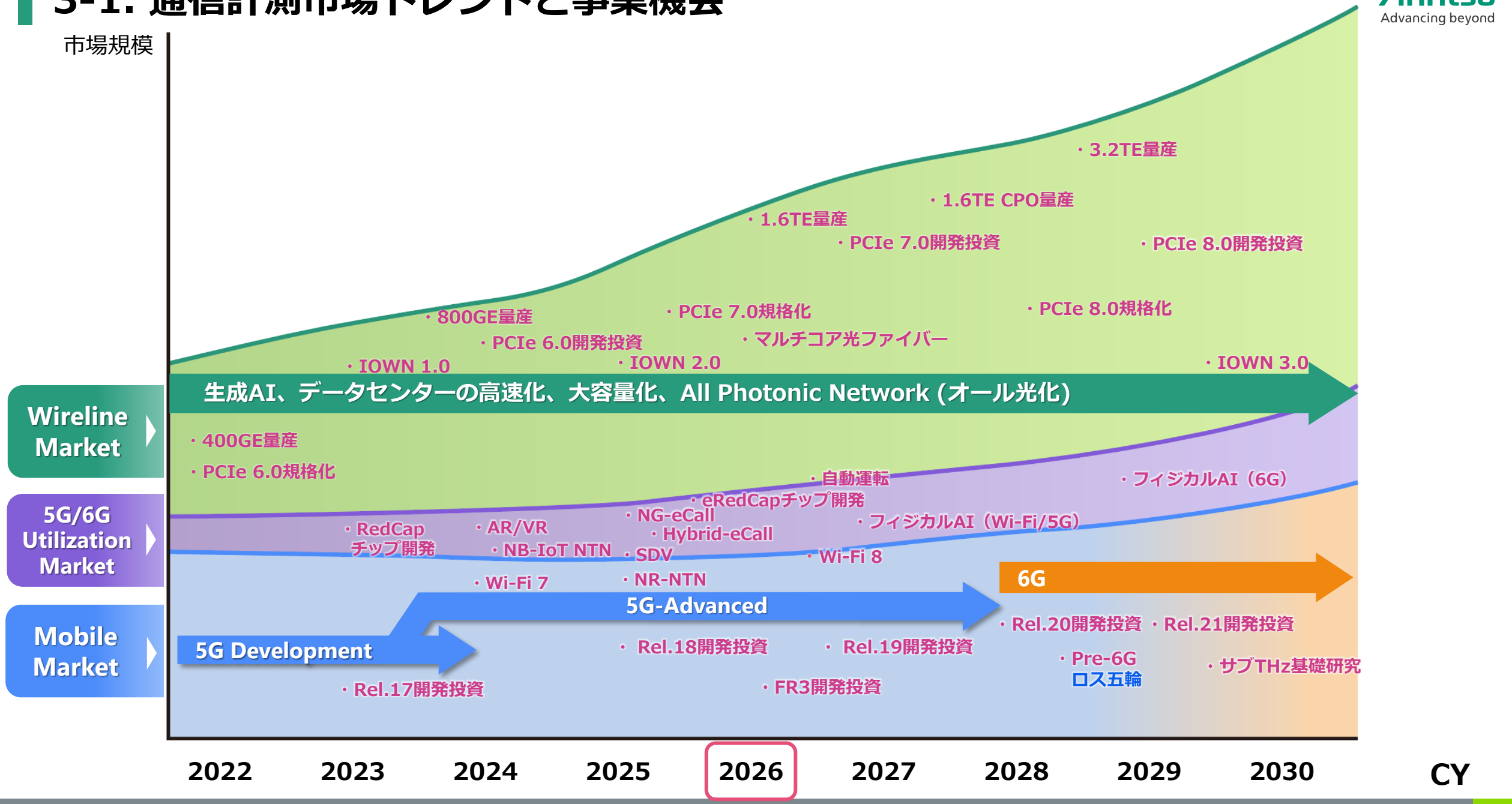
ドライバー/アンプモジュール、
高速電子モジュールほか


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3. 通信計測事業


Copyright© ANRITSU CORPORATION

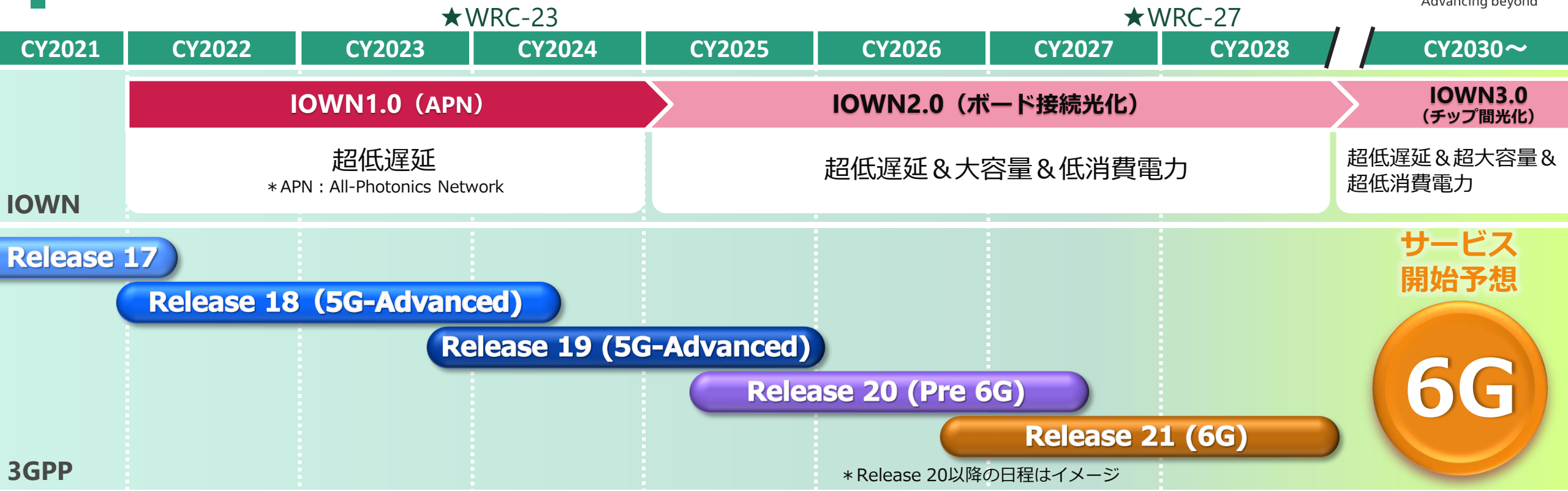
# 3-1. 通信計測市場トレンドと事業機会





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-2. 標準化動向




| 3GPP Releaseの主な追加仕様 | Release19 | Release20 | Release21 |
|---|---|---|---|
| Network強化 | AI/MLエアーインターフェイス<br>NTN機能拡張(TN・NTN間移動) | AI/ML モビリティ | AIネイティブネットワーク |
| 端末機能強化 | 省電力・XR機能強化 | AI/MLインターフェース<br>NTN機能拡張 | スケーラブルデザイン |
| 産業用IoT | 超省電力　Ambient IoT 導入 | 屋外測位・位置検出 | ISAC (通信とセンシングの融合) |
| Automotive | V2X サイドリンク | 自動運転高度化 | 広域サービスとISACの統合 |

＊出所：一般公開情報を参考に当社作成


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-3. 5G端末の開発・製造プロセスとテストソリューション

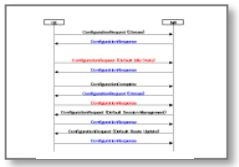
Anritsu
Advancing beyond

Sub6 / ミリ波
チップ開発・商用化端末開発

Sub6 / ミリ波
商用化端末開発

Sub6 ミリ波
量産化

## チップセットメーカの技術検証



プロトコル



ベースバンドチップセット / RF回路

## 端末メーカの結合・性能評価





機能・性能評価

## 端末メーカ/テストハウス規格適合性試験

Conformance Test (CT)



## 事業者受入試験

Carrier Acceptance Test (CAT)

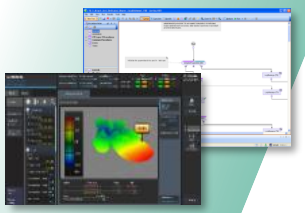


## 量産試験



RF校正・検査





MT8000A
ラジオコミュニケーション
テストステーション



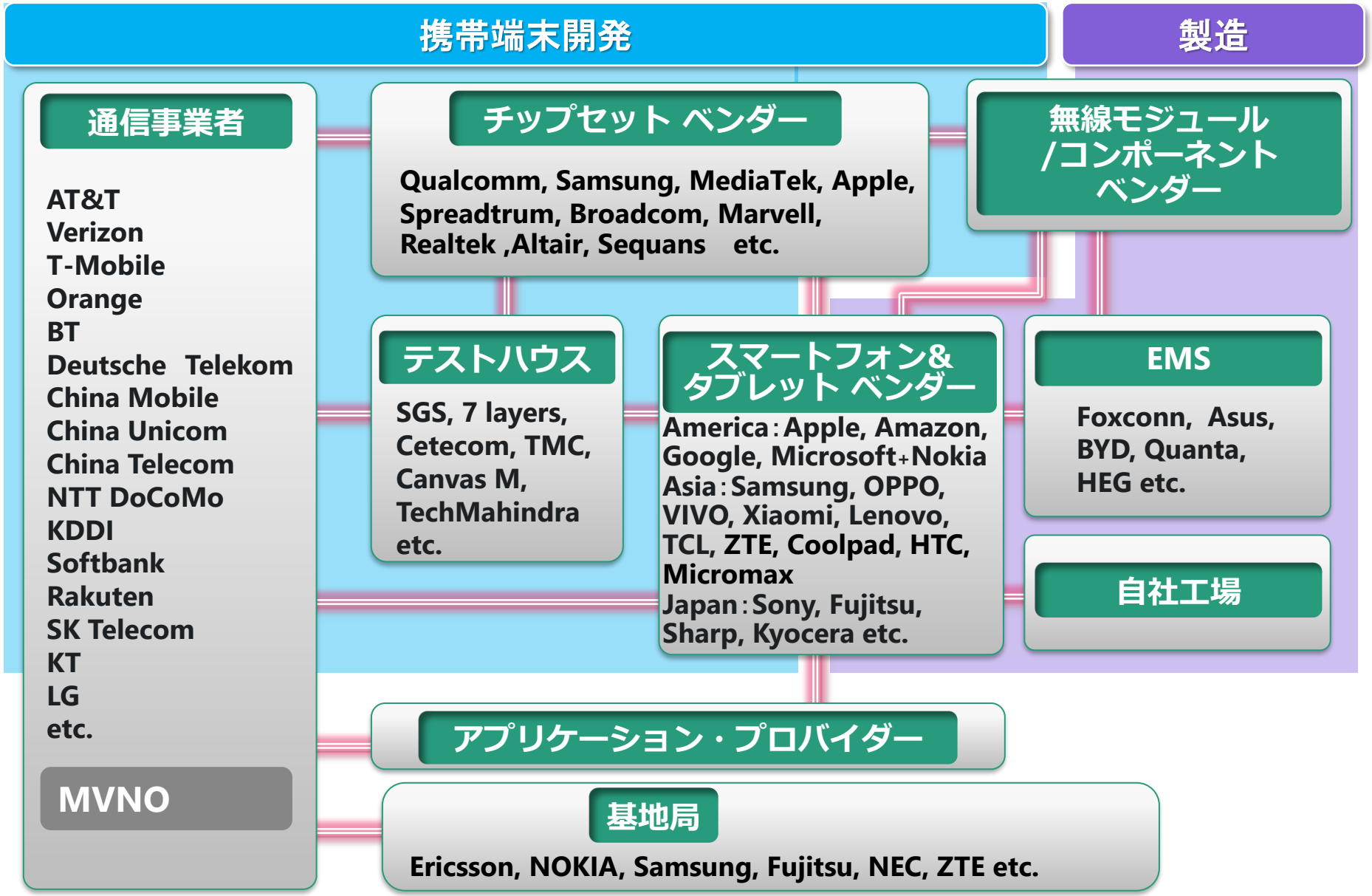
ME7873NR／ME7834NR
5G NRコンフォーマンス・事業者受入試験テストシステム



MT8870A
ユニバーサルワイヤレス
テストセット


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-4. モバイル通信市場の業界構造





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-5. Virtual Signaling Tester（Virtual ST）

## コンピュータ上で動作するソフトウェアベースの基地局シミュレータ

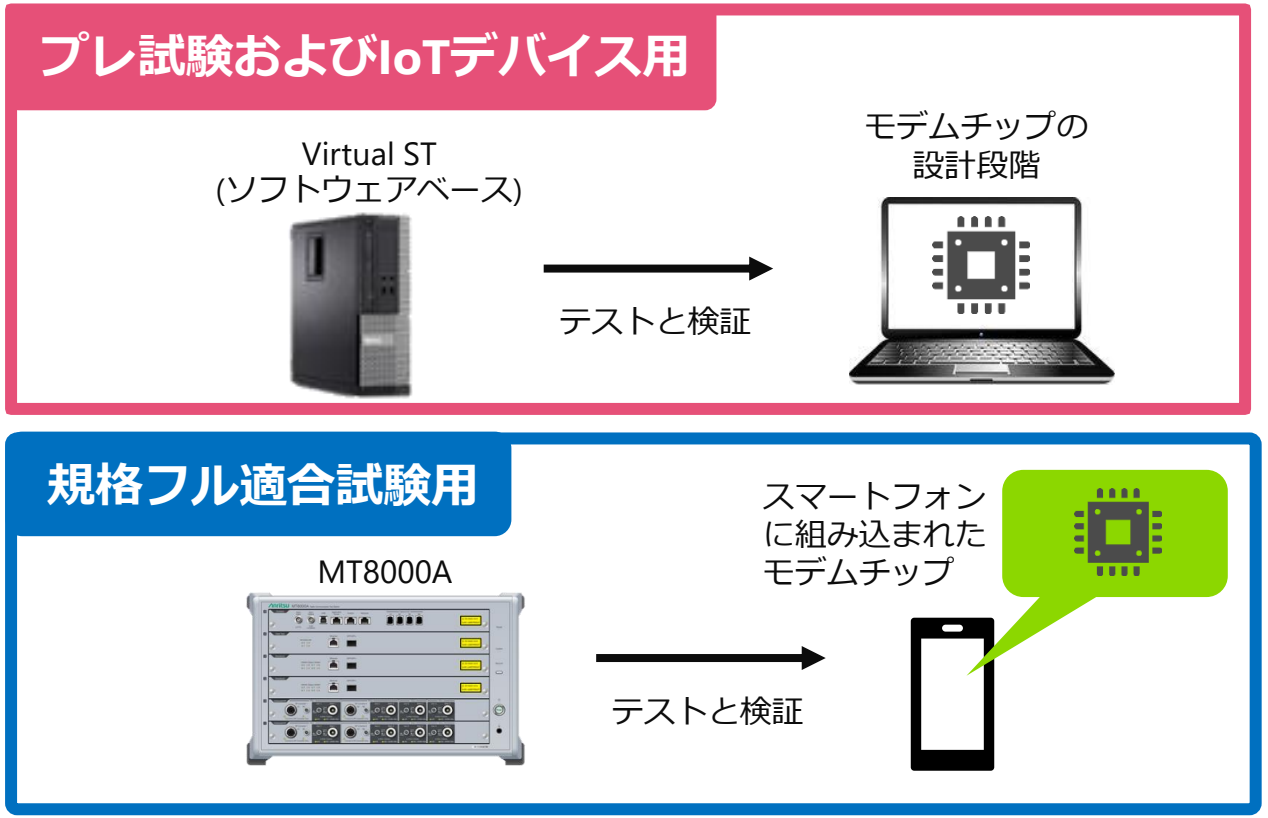
通信用モデムチップセットにはプロトコルを搭載するため、その検証プロセスが重要です。
その検証プロセスを通信用モデムチップの設計段階で仮想環境において検証ができる
Virtual Signaling Testerを開発しました。

### ■ 特 長

- 通信用モデムチップセットのモノができる前からソフトウェアベースでテストと検証が可能
- まだ規格変更が多いBeyond 5Gや6Gのプレ試験に対応
- IoTデバイスなどの試験向けに低コストソリューションの提供

### ■ 対象顧客

通信用（IoT含む）チップセットメーカ
モバイル端末メーカ



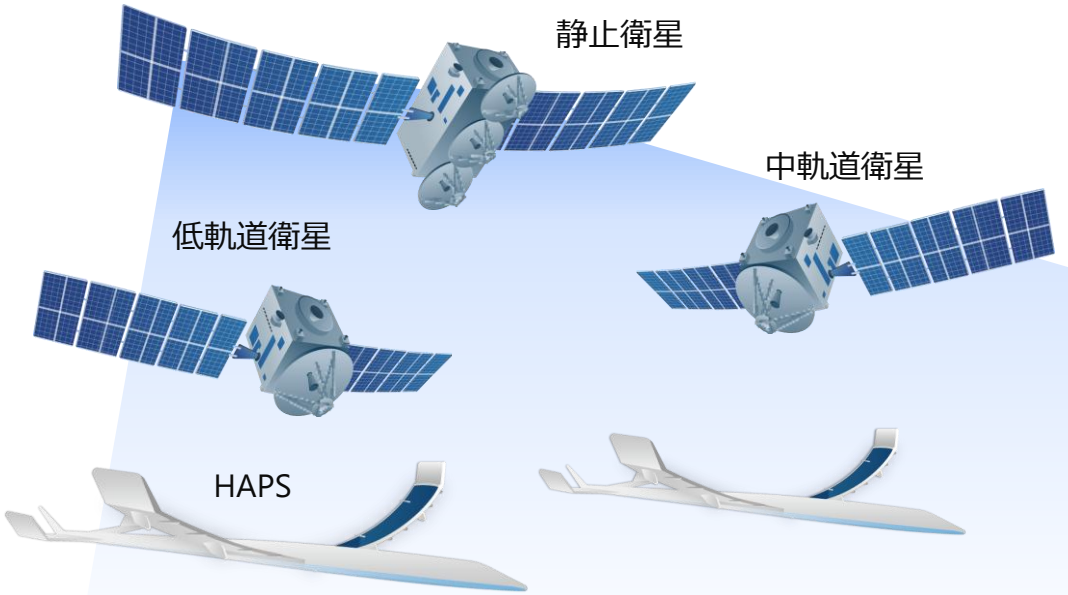


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-6. 衛星やHAPSを用いたモバイル通信のための開発向けソリューション

Anritsu Advancing beyond

## 衛星やHAPSを用いたモバイル通信サービス実現に向けNTN規格に対応




**2025年**

4Gシステムを用いる
NB-IoT対応

建設機械、IoTが中心

MT8821C/MD8430A
にて対応済み

**2026年**

3GPPリリース18にて、
5G NRを用いるNTN仕様
が制定

5Gスマホに搭載

MT8000A
にて対応済み

### エリアの拡大

山岳地域における
コネクティビティの拡大



海上エリアにおける
コネクティビティの拡大



### 既存インフラの代替

モバイル基地局・固定
電話・自営無線の代替



### IoTサービス

各種IoT機器との
コネクティビティ




### 災害対策の拡充

災害時の情報収集
緊急連絡



### バックホール回線

インフラ拡充整備
移動体向けWiFi



NTN利用時のユースケース


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-7. 自動車市場における新技術の導入とアンリツの取り組み

Anritsu
Advancing beyond

| 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

- 欧州NCAP eCall導入
- 欧州 NG-eCall義務化
- インドV2X義務化
- 欧州UN-R10 eCall試験
- ドイツ遠隔運転法

**コネクティッドカー普及**

- LTE-V2X → 5G V2X
- 4G テレマティクス → 5G テレマティクス
- SDV (Software Defined Vehicle)

**自動運転の進化**

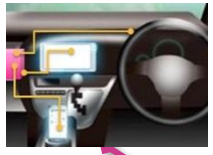
日本政府：2027年度までに無人自動運転移動サービス100か所以上

- Level 2+ ~ Level 3 → Level 4

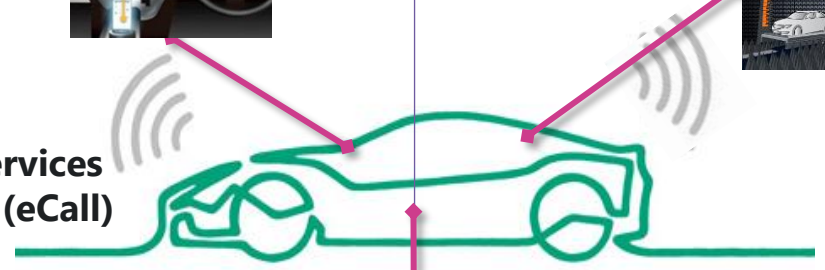
## コネクティッドカー/ V2X




モバイルネットワーク
シミュレータ



- **Infotainment/ Connected Services**
- **NG-eCall (4G/5G), UN-R144 (eCall)**
- **Cybersecurity**
- **V2X (802.11p, C-V2X)**



## HILと連携した通信協調型サービス




## フィールドモニタリング

- **SmartViser社協業**

※V2X: Vehicle to X（車車間・路車間通信）


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-8. NG-eCall(車両緊急通報システム）向けソリューション

## 欧州で義務化されるNG-eCallの機能試験に対応

- 欧州市場にて2026年1月1日から義務化されたNG-eCall*1の試験をサポート
- MT8000A/MD8475BとeCallテスタを組み合わせて擬似的なネットワークを構築



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション



MD8475B シグナリングテスタ



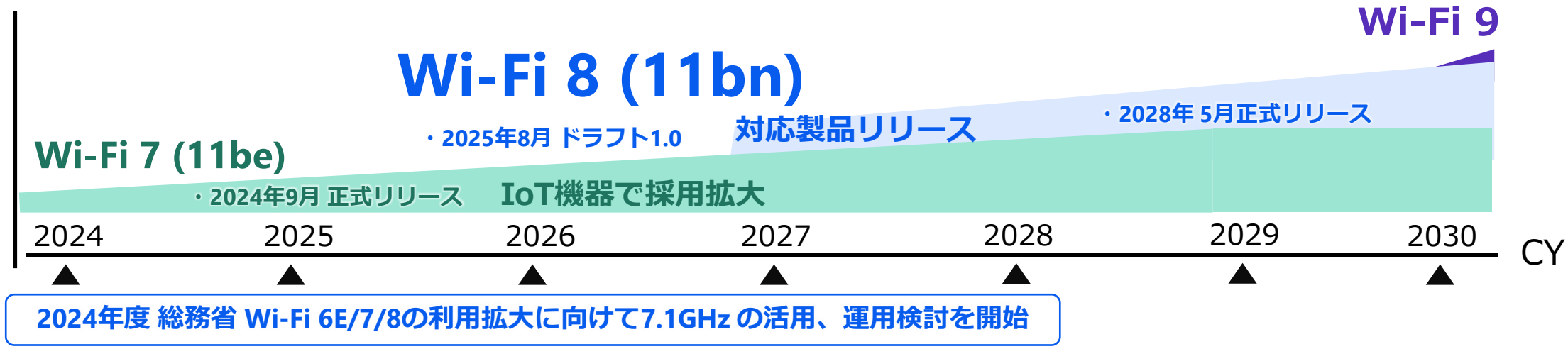
MX703330E eCallテスタ




*1: Next Generation Emergency Call


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-9. IEEE 802.11 無線LANの規格動向



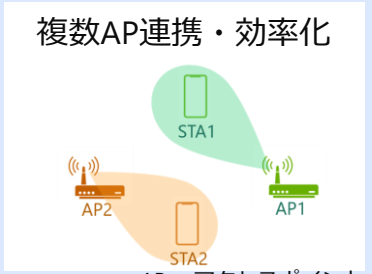

2024年度 総務省 Wi-Fi 6E/7/8の利用拡大に向けて7.1GHz の活用、運用検討を開始



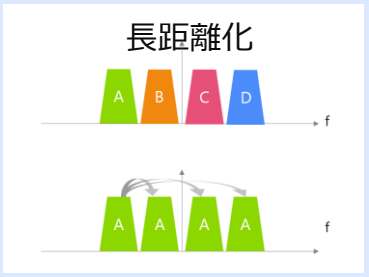
ワイヤレスコネクティビティ
テストセット MT8862A

## Wi-Fi 8　信頼性向上

(AIデバイス間の通信拡大)




＊AP： アクセスポイント




## Wi-Fi 7　速度向上

(ハイエンドIoT機器で採用拡大)





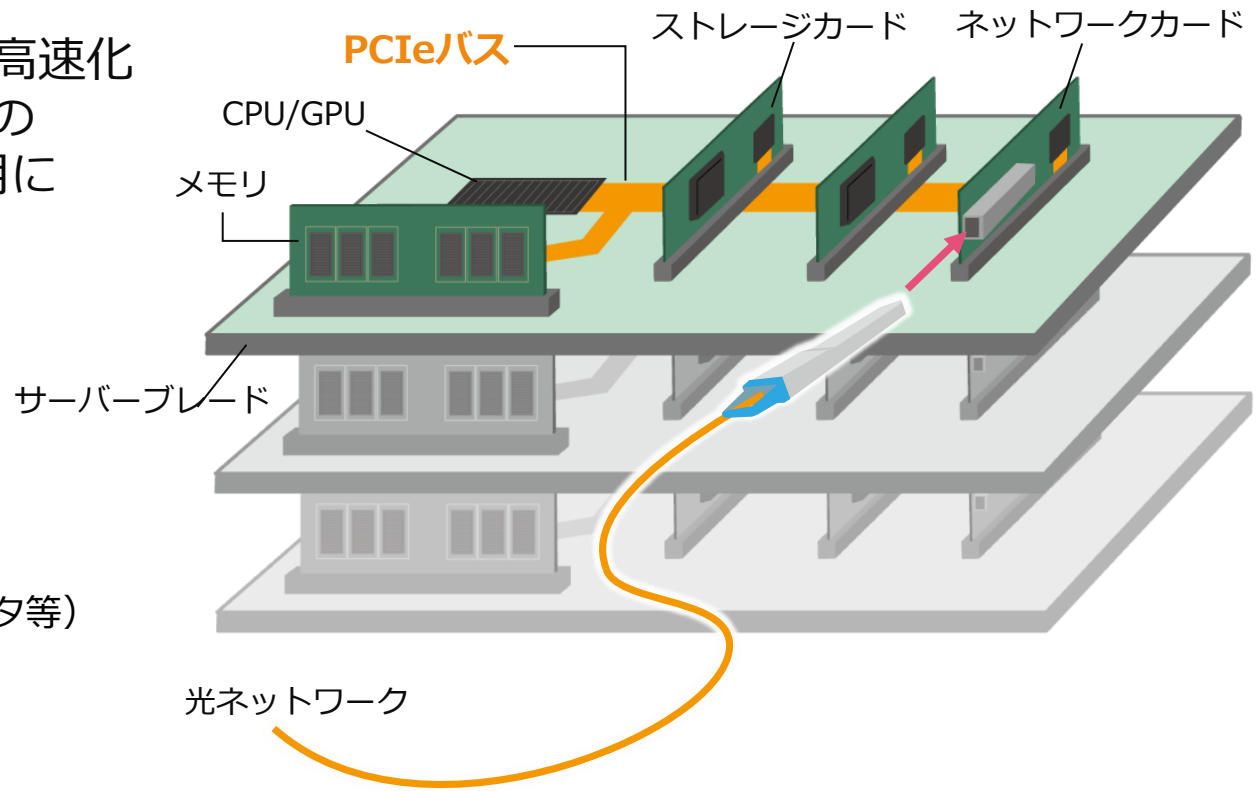



Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-10. サーバー内高速化のための開発向けソリューション

## サーバー内通信の高速化に向けて、PCIe Gen6/Gen7に対応

800GE、1.6TEへとサーバー間の光ネットワークの高速化が進展している。これに伴い、サーバーブレード上のCPU/GPU、メモリ、各種モジュール間の高速通信用にPCIe Gen6/Gen7対応が進められている。




### ■ 測定用途

データ誤り率と波形品質の評価に使用

### ■ 対象顧客

・GPU/CPUメーカー
・高速インターコネクト関連メーカー（PCIeカード、コネクタ等）
・ネットワーク機器メーカー



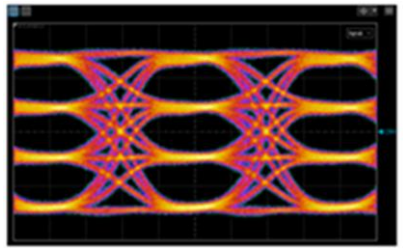
**シグナル・クオリティ・アナライザ MP1900A**

受信性能試験としてひずみを加えたPCIe信号入力

出力信号の誤り率を測定

DUT

出力信号の波形測定



オシロスコープによる観測波形

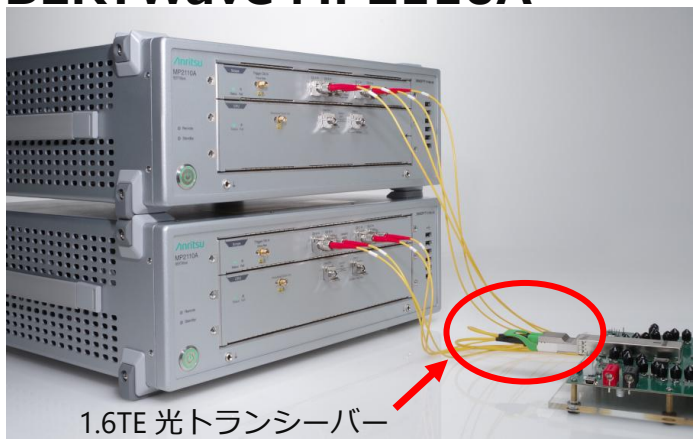

Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-11. ネットワークの高速化に向けたモジュール製造向けソリューション

Anritsu Advancing beyond

## 生成AIの普及によるデータセンターの大容量化に伴う光トランシーバー評価に対応

### BERTWave MP2110A



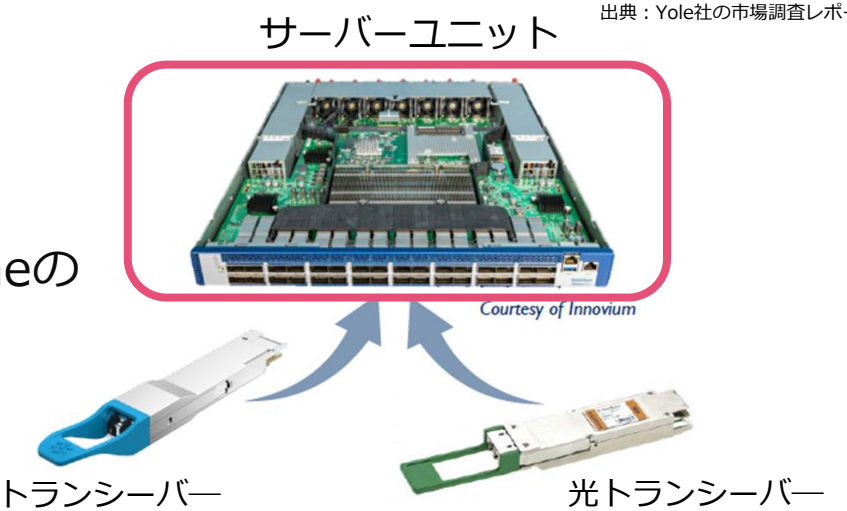

MP2110Aの強み：

製造検査に最適な構成

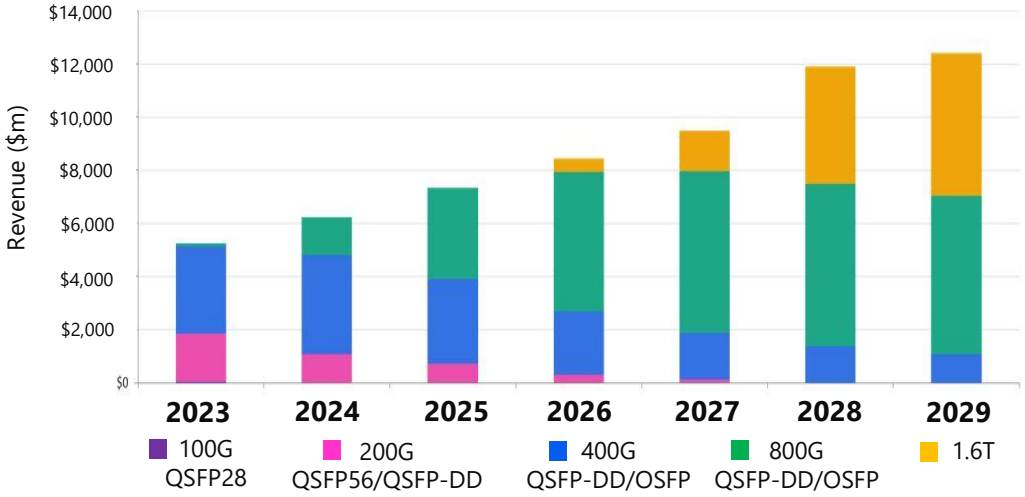
- 4チャネルの同時測定が可能
- 高い測定確度と信頼性で200G/Laneの信号評価を高速に実現

**400GE/800GE/1.6TE信号**

出典：Yole社の市場調査レポートより



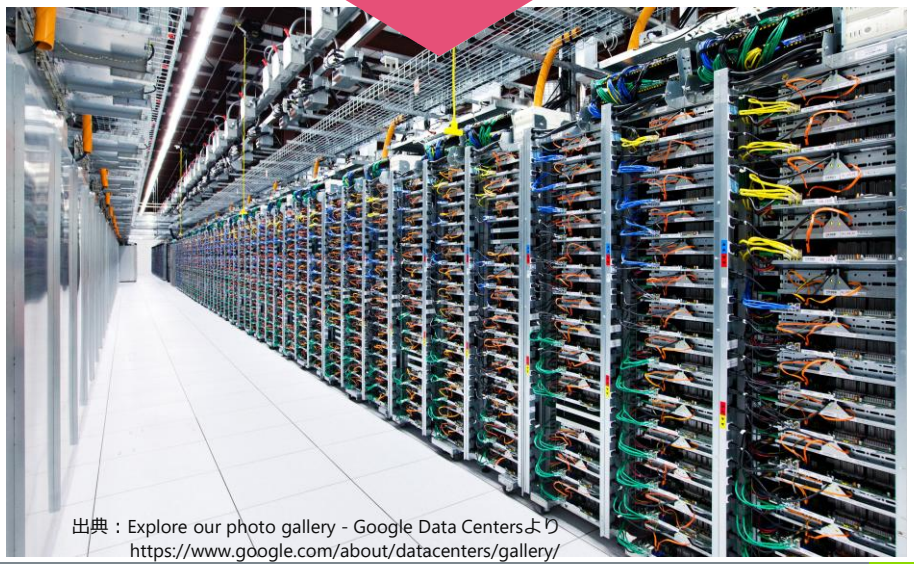

### Optical modules by data rate




出典：Omdia; 2025 Trends to Watch: Datacom Optical Components

サーバーラックの裏側

サーバーユニットに挿入される大量の光トランシーバー



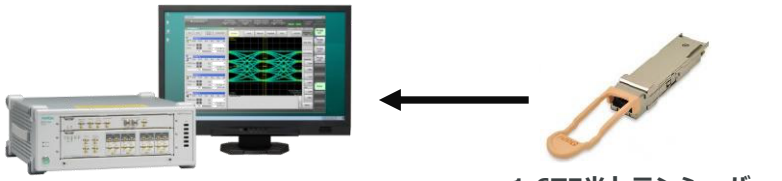
出典：Explore our photo gallery - Google Data Centersより https://www.google.com/about/datacenters/gallery/


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-12. データセンターに向けた取り組み

## 光デバイス/光トランシーバー、セミコンダクタ

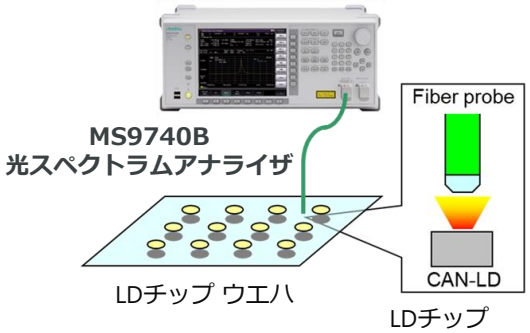
### 光トランシーバー製造評価/CPO光波形評価
4ch同時測定で効率化、
400/800GE ⇒ 1.6TEモジュール評価に対応 New



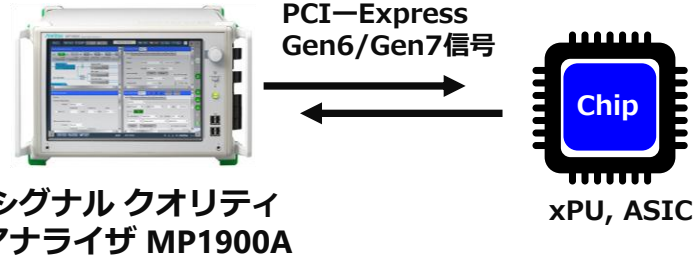
MP2110A BERTWave

1.6TE光トランシーバー

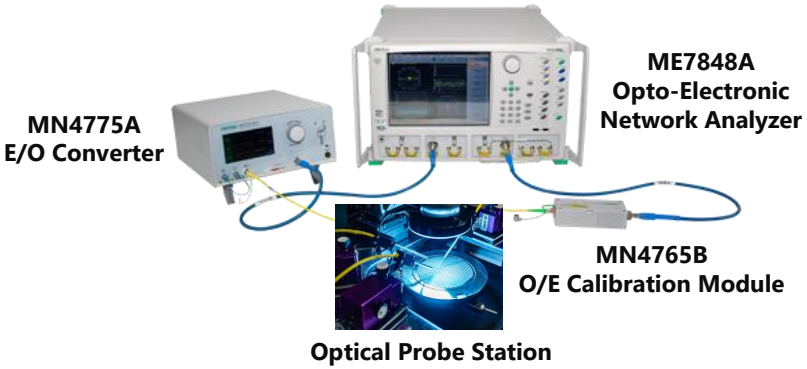
### 光トランシーバー/CPO向けLD評価




### サーバー内のデバイス/モジュール評価
PCIe デバイス性能マージン評価




### シリコンフォトニクス/デバイス チップ評価
E/O, O/Eの組合せで、110GHz帯域までの電気/光、光/電気、電気/電気デバイス評価に対応




## 光海底ケーブル

### マルチコアファイバ(MCF)の品質、製造性評価
4コア一括測定で効率化、コア間クロストーク測定、破断点特定



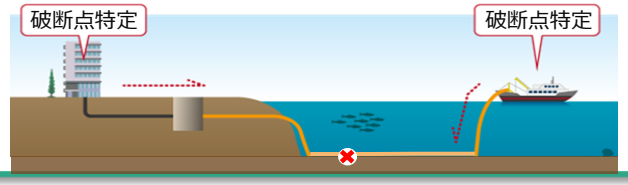

MT9100A
マルチチャネルファイバテスタ

*FIFO :ファンインファンアウト。それぞれのファイバを1つのマルチコアファイバに集約

### 光海底ケーブル敷設、保守



MW910010B
コヒーレントOTDR



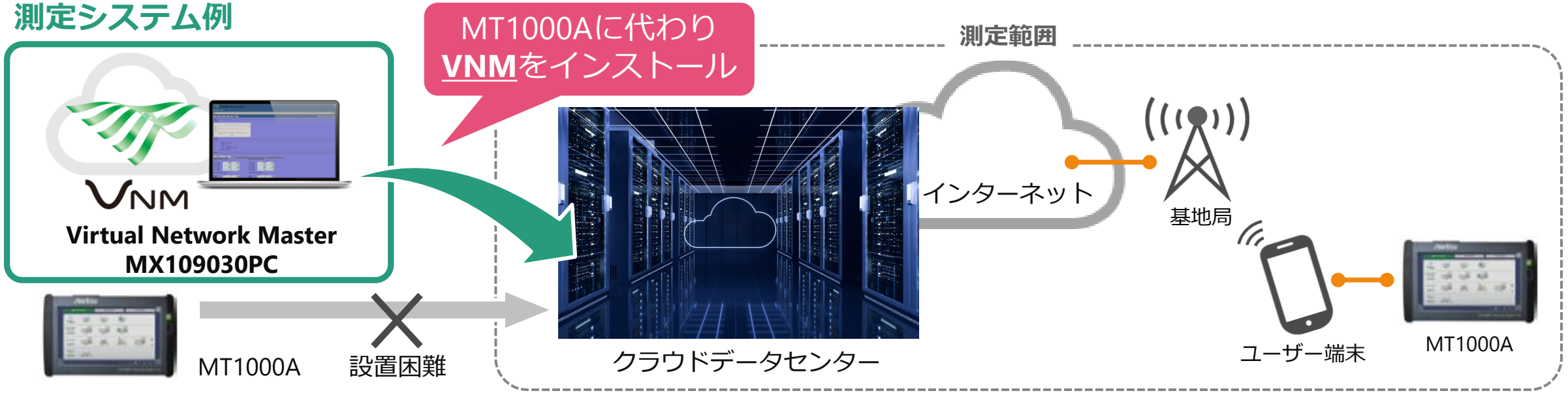


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-13. データセンター・クラウドネットワークの品質保証ソリューション

## エンド・ツー・エンド通信品質の評価用ソフトウェアソリューション

### ■ 測定システム例




### ■ 特長

- クラウドサーバー側に**MT1000Aの設置が困難なクラウド環境下**でも、ソフトウェアベースの試験ソリューションによりリアルタイムの通信品質評価を実現
- 外部PCにて、Virtual Network Masterを制御、各種測定の設定と結果表示・出力が可能

### ■ 主な測定項目

- 通信品質：　遅延時間、フレームロス、パケットジッタなど

### ■ 対象市場

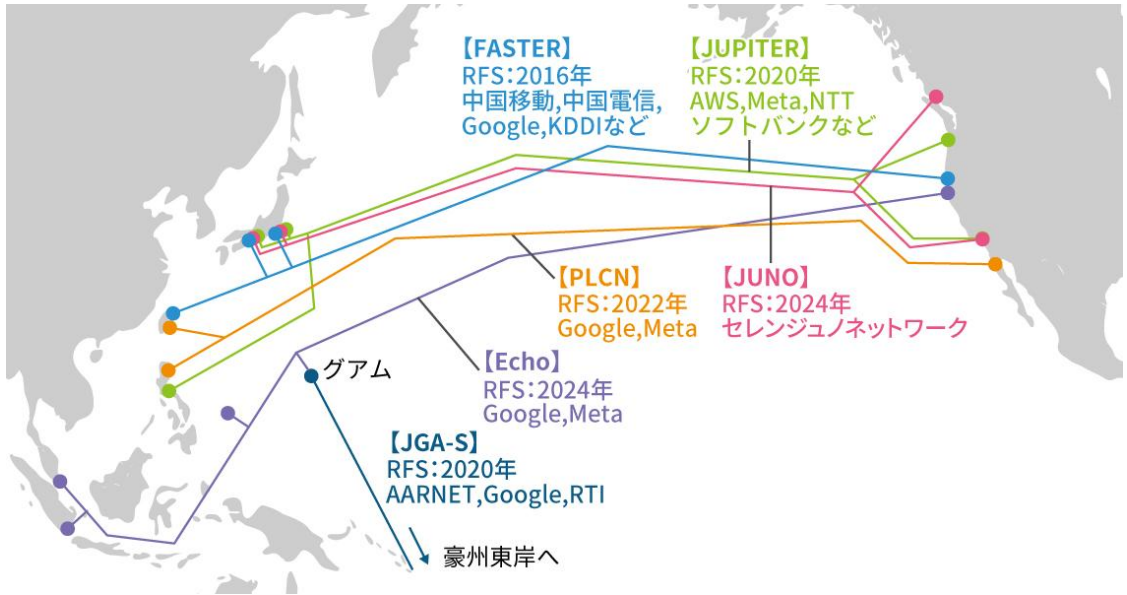
データセンター、オールフォトニクスネットワーク、モバイルネットワーク、NTN（非地上系ネットワーク）、自動車・モビリティ、医療など


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-14. 光海底ケーブルの敷設・保守用ソリューション

## 光海底ケーブルの敷設時と保守時の障害検知に対応

データセンター増設のために新たな経路での光海底ケーブルの敷設が、ハイパースケーラーによって推進



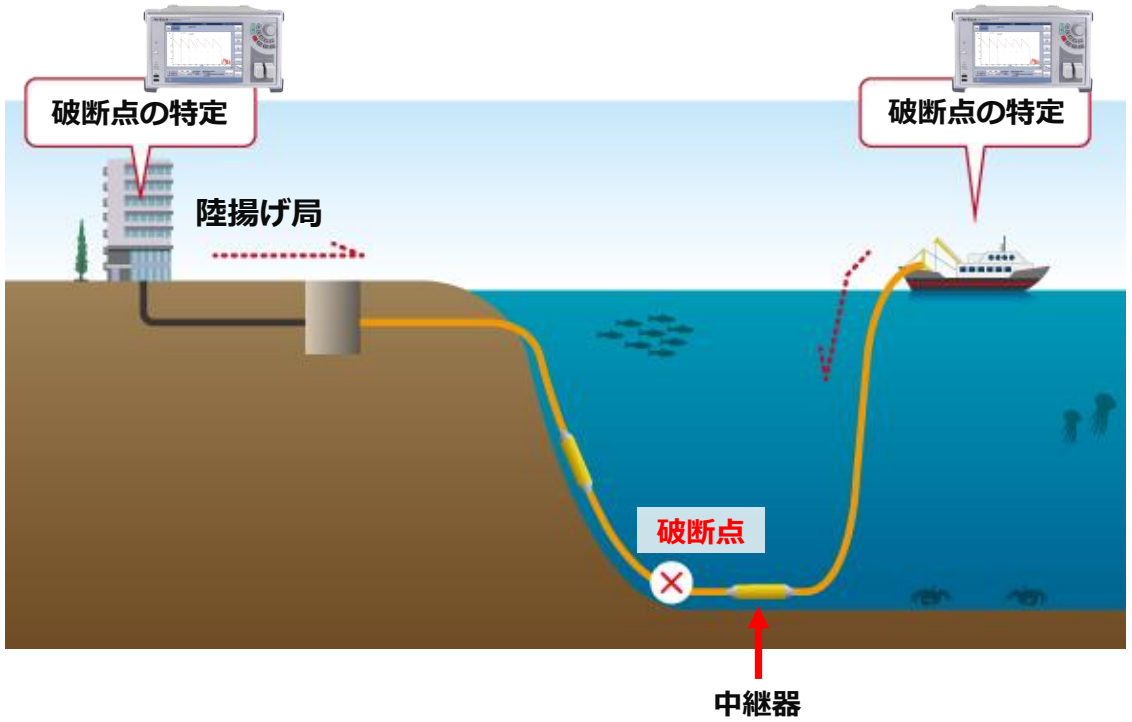

出典：TeleGeoGraphy「Submarine Cable Map」を基に作成



MW90010B
コヒーレントOTDR

最大**20,000km**までの光ケーブルの障害を10mの分解能で検知
(日米間の太平洋海底ケーブルは10,000～12,000km)

ケーブルの敷設時は、陸揚げ局と敷設船の双方からケーブルの伝送損失や中継器の動作をモニタ、保守時は陸揚げ局側から障害箇所を特定



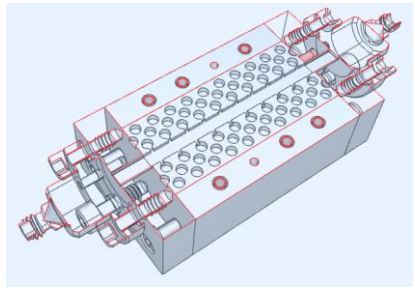


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-15. 6Gに向けてのアンリツの取組み

Anritsu
Advancing beyond

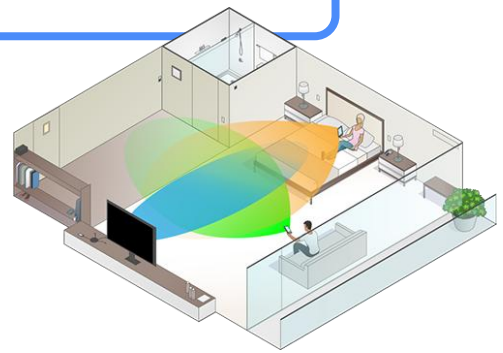
- 100GHz超の
  ミリ波設計技術
- ～300GHz帯の
  受動素子の研究






ギャップ導波路

Full Duplex通信時の
電波干渉の測定技術



IOWN GLOBAL FORUM

5Gの10倍の
通信速度

5Gの1/10の
低遅延

**6G**
アンリツ
の取組み

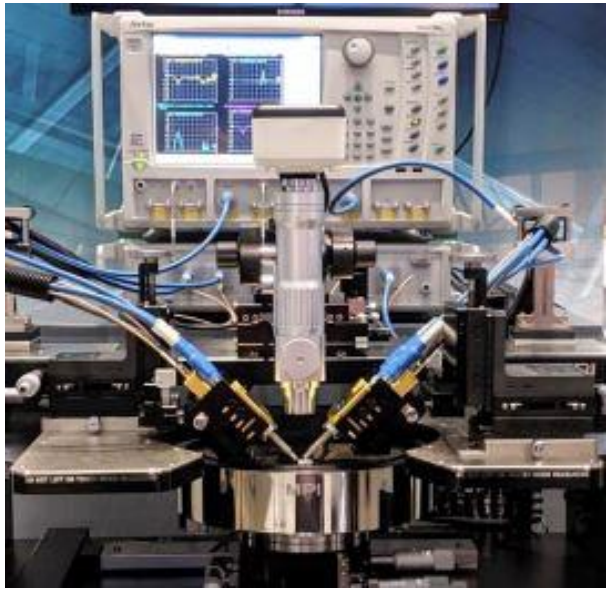
拡張性

消費電力を
現在の1/100

自律性

O-RAN ALLIANCE

**Beyond 5G/6G**
**材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価**
**ME7838シリーズ**
**ベクトルネットワークアナライザ**



## ■ 特 徴

ミリ波拡張モジュール追加により、
6Gに求められる330GHz帯の
高周波試験に対応

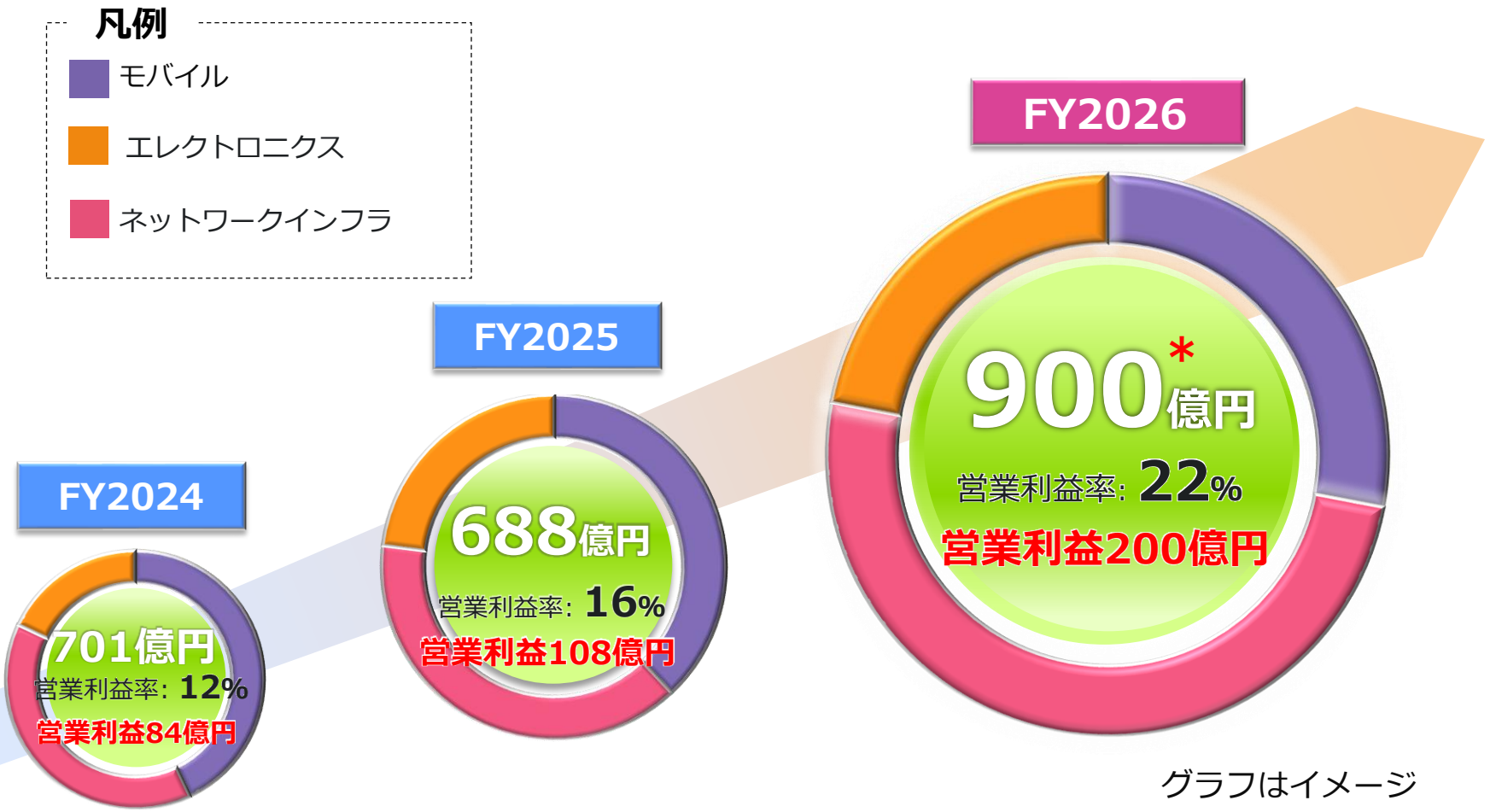
## ■ 対象顧客

高周波デバイスの研究機関および
大学、デバイスメーカー、素材メーカー、
通信機器メーカー


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 3-16. 通信計測事業の成長ターゲット

- 生成AIによるネットワーク高速化（800GE、1.6TE）需要を獲得
- ソフトウェアビジネスを拡大し営業利益を改善
- 高周波帯向け通信計測器ラインナップの拡充と
  それらに携わる技術体制の拡充（人材への投資）




グラフはイメージ

**FY2030**

**売上高 1,100億円**

- ６Gへ向けた取組
- データセンターのさらなる発展
- 完全自動運転の実用化
- ソリューションビジネスの増加

**通信の安全・安心を担保し、ビジネスモデルの変革を通じて、安定成長事業の実現を目指す**

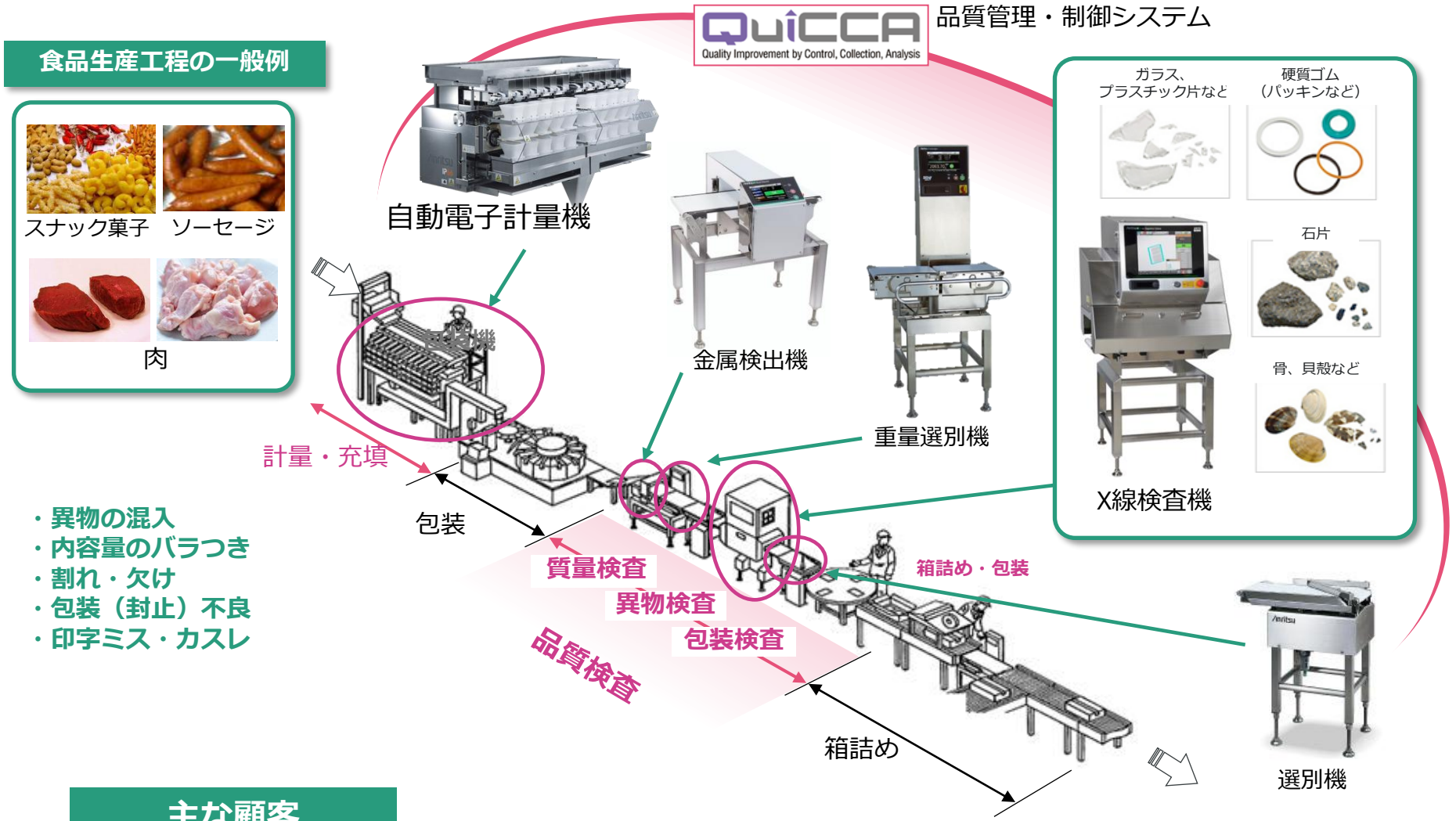
＊2026年10月29日発表の数値に更新


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4. PQA事業


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-1. PQA事業 (Products Quality Assurance)



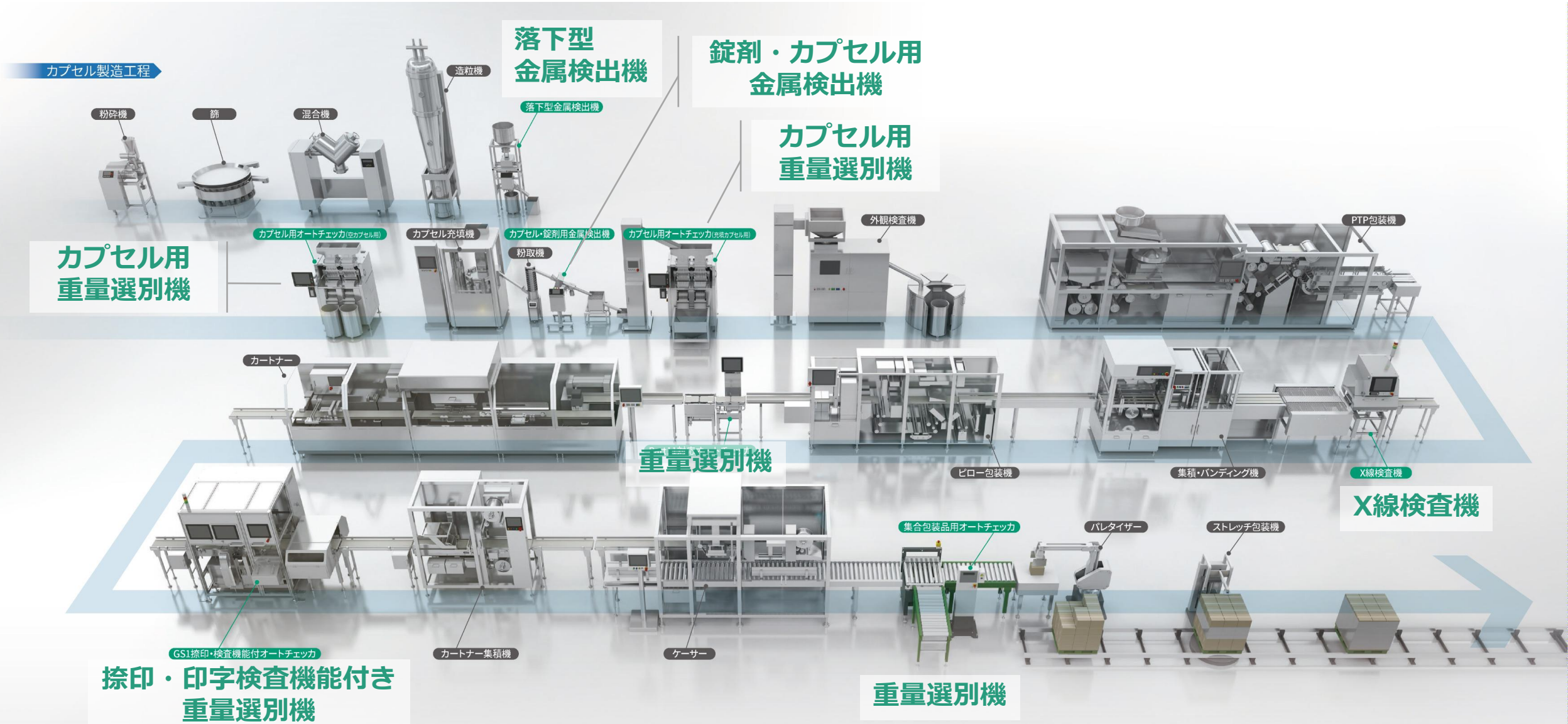

## 主な顧客

モンデリーズ、ネスレ、クラフトハインツ、日本ハムグループ、グリコグループ、ニッスイグループなど


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-2. 医薬品製造ラインの導入イメージ

アンリツは医薬品製造の現場に対しても、半世紀以上前から品質検査機器を提供しています。
大量かつ微細な医薬品の特性に合わせ、医薬品に特化した検査機をラインナップしています。





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-3. PQA事業：市場の成長機会

**医薬品市場**
日本・北米・中国
インド

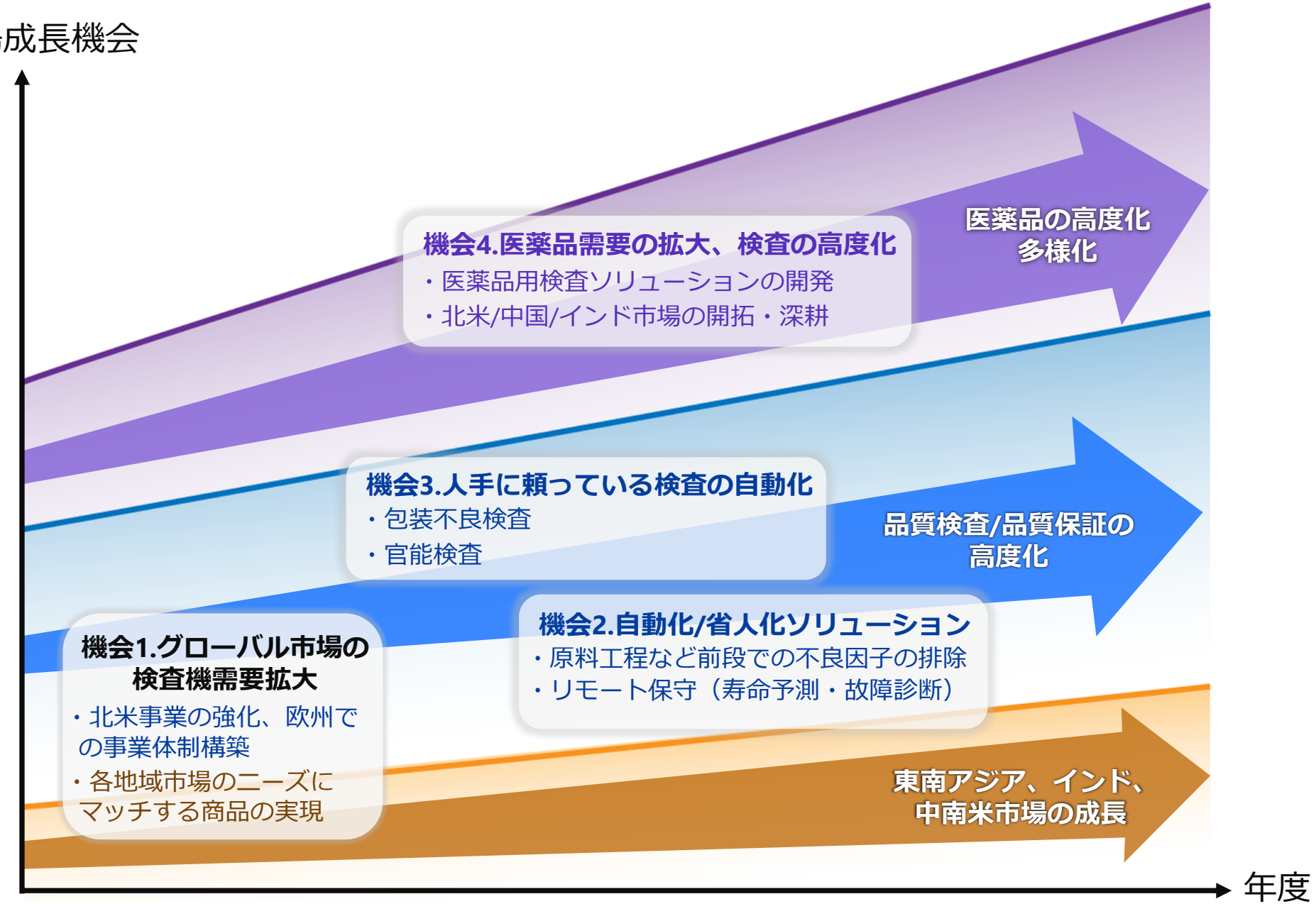
**市場ドライバー**
安全への高い関心
新興国の医療改善
高齢者人口の増加

**食品：先進諸国市場**
欧米・日本・中国

**市場ドライバー**
食品ロス削減・省エネ
ブランドリスク増大
労働人口の減少・少子化

**食品：新興国市場**
東南アジア・インド
・中南米

**市場ドライバー**
労働人口の増加、経済発展

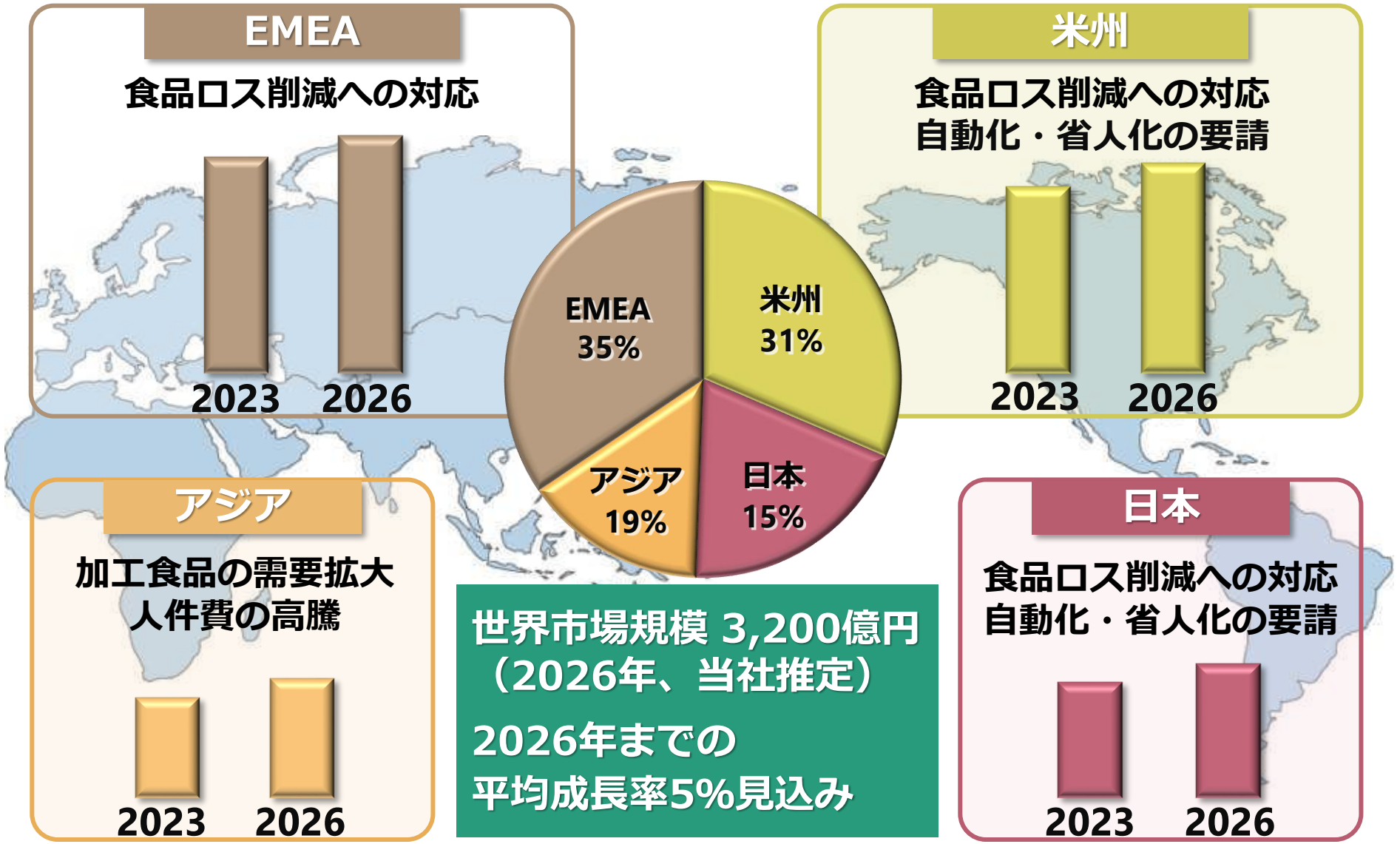




Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-4. PQA事業：PQA市場の現状と見通し

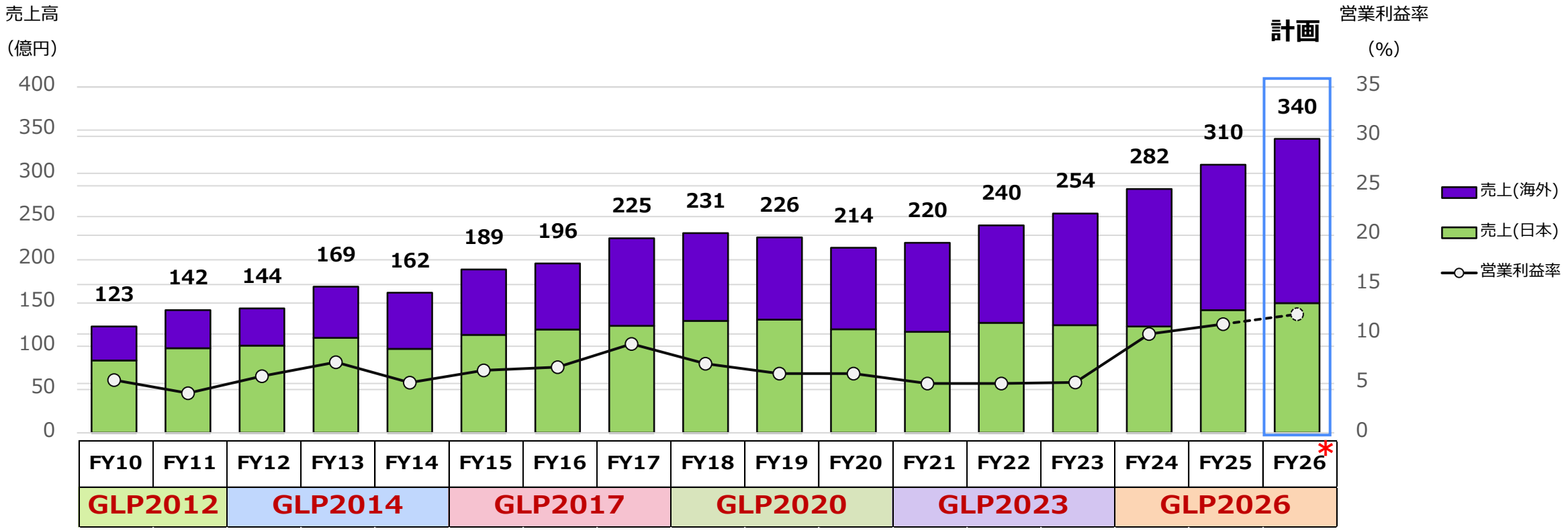
Anritsu
Advancing beyond





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-5. 成長するPQA事業




| 市場 | 主な取り組み |
|---|---|
| 北米・EMEA・アジア | X線検査機をキー・ソリューションとした市場開拓 |
| 日本 | 最先端ニーズにこたえる高付加価値の品質保証ソリューションでシェア向上 |

**主な競合**　メトラートレド、イシダ、マレル

＊2026年10月29日発表の数値に更新


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-6. PQA事業：GLP2026　グローバル事業展開

Anritsu
Advancing beyond

## 日本

FY23 FY26

←医薬品事業:新製品で攻略
←新事業：日本と北米でスタート
←既存事業
モデルチェンジで高シェア維持

日本

医薬品市場開拓

新事業を展開

医薬品市場開拓

## EMEA・米州

### EMEA

既存事業
・X線検査機を核に高性能な製品でブランド確立
・販売店と連携した現地対応力の強化

FY23 FY26

EMEA

GKA実績を
欧州へ展開

FY23 FY26

米州

医薬品事業：販売チャネル開拓
新事業：展開の起点に
既存事業
・X線検査機を核に重量選別機、金属検出機のシェア拡大
・現地開発、現地対応力の強化

FY23 FY26

米州

FY23 FY26

中南米

既存事業
・中南米市場のGKA開拓

人口増による食品製造市場の拡大に対応した事業体制の構築

FY23 FY26

アフリカ等

## アジア

FY23 FY26

中国

GKA実績を
アジアへ展開

### 中国・APAC

既存事業
・アジア地域に適合する製品を提供
・販売店と連携した現地対応力の強化

FY23 FY26

APAC

※GKA:グローバルキーアカウント　グローバルに事業を展開する重要顧客
※既存事業：重量選別機やX線検査機など既存の品質検査機器事業
　新事業　：既存事業に追加する新たな品質保証ソリューション事業
※地域毎の棒グラフはFY2023→FY2026の売上イメージ


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-7. 製品紹介：X線検査機XR76シリーズ

## 省力化と品質管理強化を両立する 「XR76 シリーズ」新型X線検査機

検査設定や誤検出品の再検査に多くの人手を必要としている食品検査市場に
最新鋭のセンシング技術の搭載と操作性の向上を図った**「XR76シリーズ」**を投入することで売上拡大を目指す



### ■ 特 長

- 商品をコンベアに一回流すだけで、検査設定が完了
- スマートフォンのような直感操作性
- 誤検出率を従来比1/7に低減。再検査の手間を削減し、歩留まりも改善
- 従来比で最高40%の検出感度向上
- 高速ラインでも安定検査
- 長寿命化によるダウンタイムの低減

### ■ 対象顧客

食肉加工メーカー、菓子メーカー、総菜メーカー、冷凍食品メーカーなど


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-8.製品紹介：X線検査機 AI機能拡充オプション

## 従来のX線検査技術にAI技術を組み合わせることで、検査精度を向上

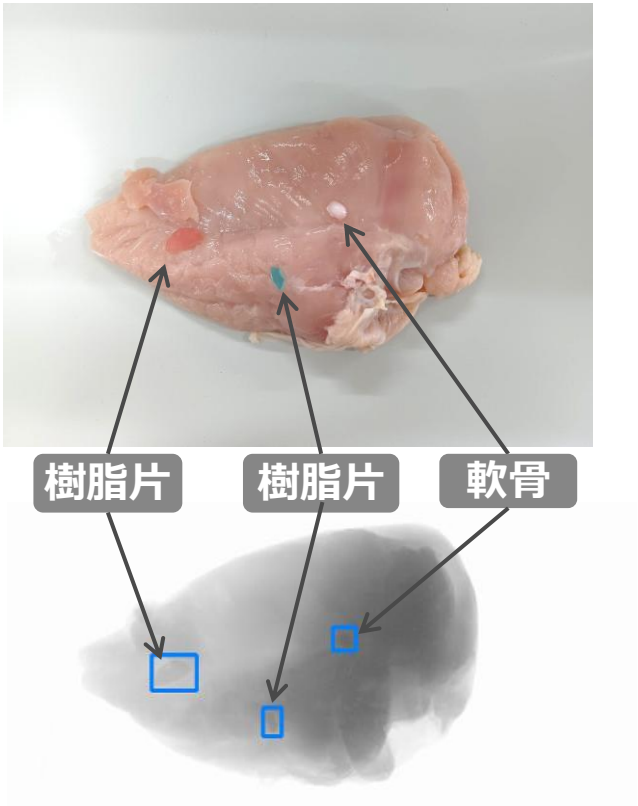
お客様の現場で学習するAI機能オプションをラインナップ。生産現場特有の不良品パターンを現場で学習することで検出精度を向上します。誤検出を低減し生産ラインの歩留りの向上に貢献します。



X線検査機　XR76シリーズ

### ■ 異物検査

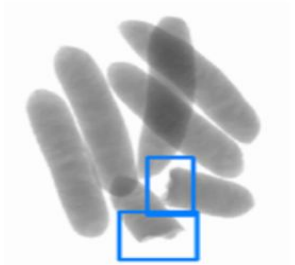
軟骨や樹脂片などの検出精度が向上



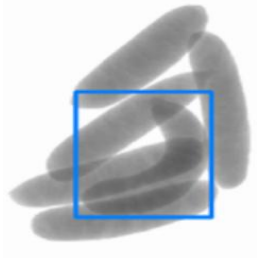

### ■ 形状不良検査

ソーセージの折れや曲がりを検査



折れ検出



曲がり検出


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-9. 製品紹介：錠剤の成分量を全数検査するNIR検査装置

## NIR錠剤検査装置

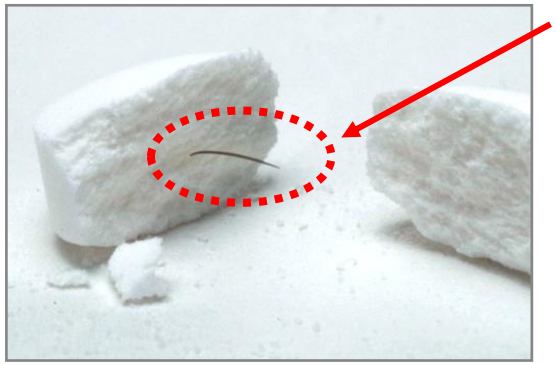
NIR吸収スペクトル測定法により、錠剤内部を全数（25万錠/時）透過測定します。

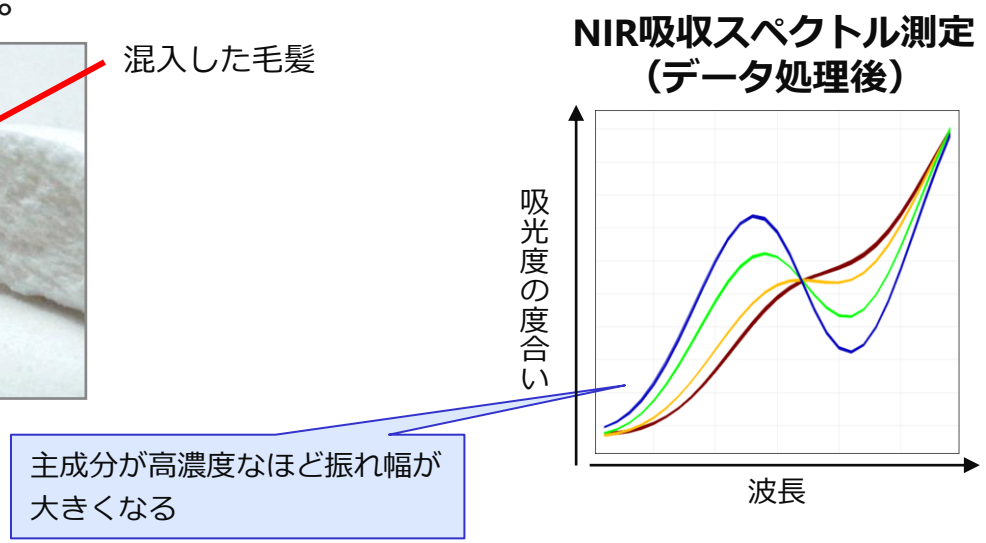
生産品質のコントロールや、スケールアップ時のプロセス評価に適しています。

■**成分量分析：**非破壊で錠剤の成分量を検査します。

■**クロスコンタミネーションの防止：**異錠剤の混入を検出し、
成分が異なる錠剤を排除します。

■**異物検査：**錠剤内部に混入した毛髪や虫などの有機由来の
異物を検出できます。



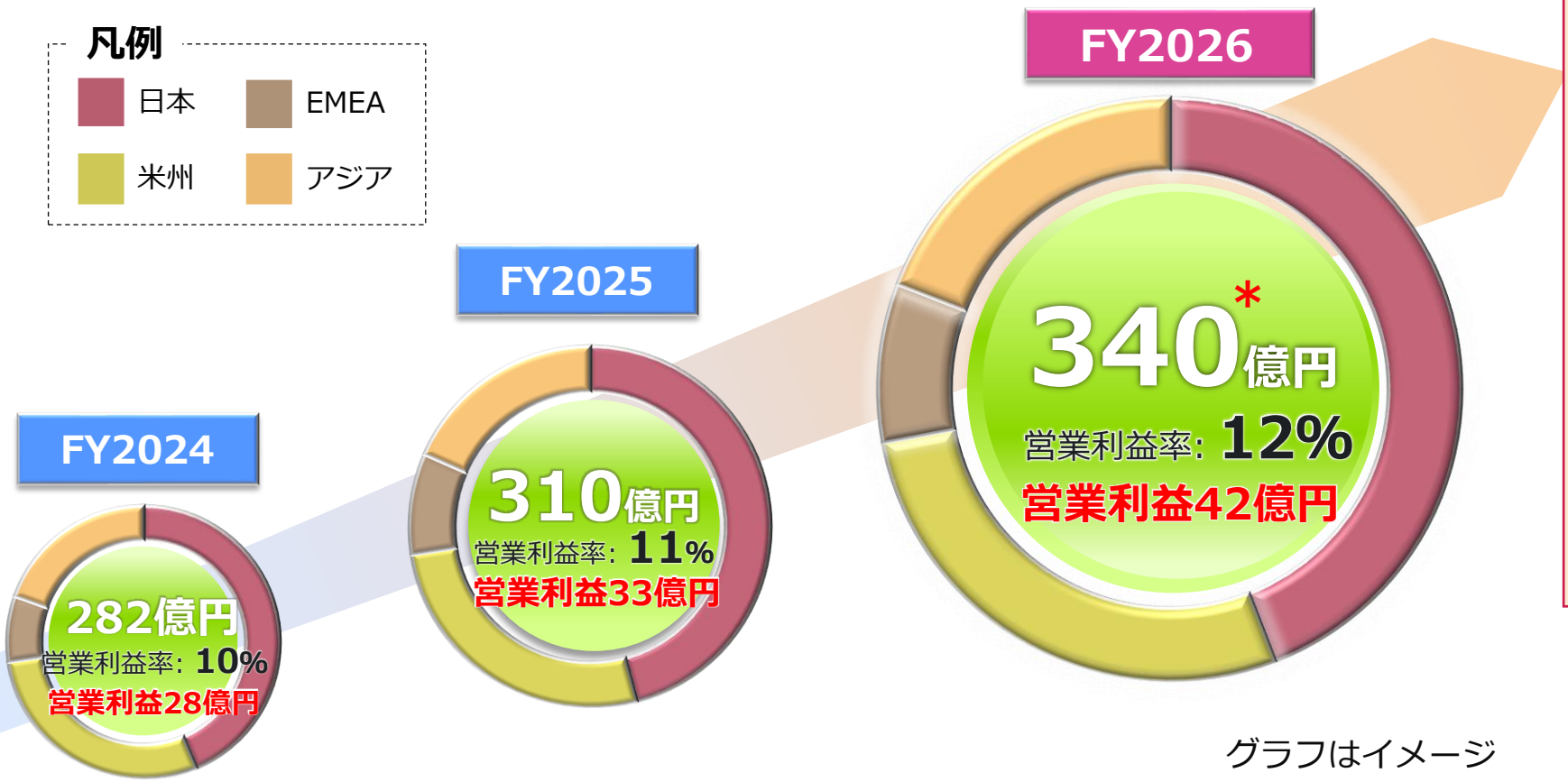





Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 4-10. PQA事業の成長ターゲット

- **顧客価値の高いソリューションの創出**：
  AIなど先端技術の獲得、生産ラインの自動化・省人化
- **高付加価値領域への事業拡張**：
  人手に頼っている検査の自動化、医薬品製造市場
- **強靭な利益体質の構築**：
  サプライチェーンのグローバル最適化、業務プロセス改革




グラフはイメージ

**FY2030**

## 売上高 500億円

- 食品や医薬品の品質保証をグローバルにサポート
- 省人化で人手不足を軽減し、お客様の収益性向上に貢献
- 品質向上による食品ロス低減

**持続可能な未来に向けて、世界中のお客様から最も信頼される品質保証のFirst to Call カンパニーになる**

＊2026年10月29日発表の数値に更新


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 5. 環境計測事業


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 5-1. 環境計測事業

## エネルギー制御と情報通信の技術で安全・安心に住み続けられる豊かな社会の実現を目指す

### パワーエレクトロニクス事業

#### 脱炭素社会実現への貢献



- 電動モビリティの性能向上と普及
- 内燃機関電動化の加速
- 再生可能エネルギー活用促進
- 脱炭素社会に向けたインフラ整備

### ネットワーク事業

#### 社会インフラの強靭化



- 社会インフラ監視の高度化
- 防災・減災センサネットワーク
- 金融ネットワークの信頼性向上
- 建設工事の安全性向上

#### ものづくりの効率化・省人力化



- ものづくり現場の情報高度化
- 遠隔監視技術による人手不足対応
- ローカル5G/無線LAN 活用促進
- 作業者動線分析/異常検知


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# パワーエレクトロニクス事業

## 高砂製作所の電源事業を核に成長を加速





### 《重点事業領域》

EVを中心としたモビリティの電動化と周辺市場

### 《事業戦略》

高砂製作所の電力制御技術と市場実績を基盤にソリューション展開を拡大

### 《主な施策》

- 電源システムのフレキシブル性を強化し多様化する試験ニーズへの対応
- EV/電池評価市場から周辺市場へのソリューション適用範囲の拡大
- EV普及で拡大する周辺デバイス市場に向けた製品ラインナップの拡大
- 国内事業で培った技術とノウハウを生かした海外市場開拓
- グループ生産拠点の連携強化による製品供給能力の増強


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# ネットワーク事業

## 社会の安全・安心を守る通信インフラの次世代化に貢献

### 《重点事業領域》

品質と安定性が要求される公共性の高い情報通信システム市場

### 《事業戦略》

高い技術とノウハウで通信インフラ設備の円滑な次世代化に貢献

### 《主な施策》

- 社会インフラ保全ネットワークのフルIP化ソリューションの提供
- 自然災害への備えを支援する分散型遠方監視システムの開発
- クラウドに対応した帯域制御ソリューションの投入





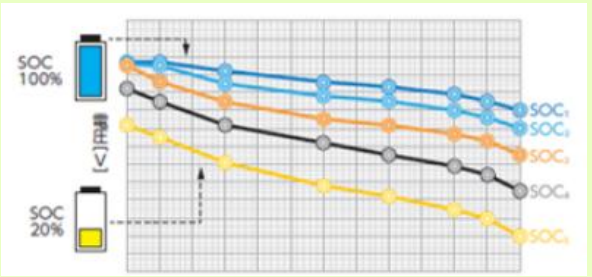

Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 5-4. パワーエレクトロニクス事業：EV開発評価における用途

## EVの安全性や性能の向上に欠かせない評価設備を供給



### 【電池模擬】




走行

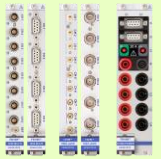
回生

### パワートレイン評価



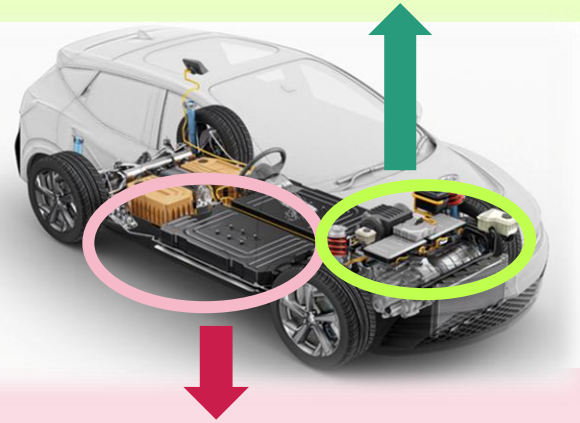


- ◆電圧･電流
- ◆回転数,トルク
- ◆ロータ位置
- ◆温度
- ◆振動，騒音
- ◆ねじれ，歪み
- ◆インバータ制御信号
- ⋮





高砂製作所



DEWETRON

### 【走行/充電模擬】





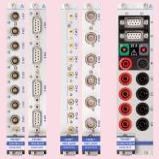
放電

充電



### 電池評価

- ◆電圧･電流 (セル/モジュール)
- ◆温度(セル/モジュール/周囲)
- ◆振動，騒音
- ◆絶縁抵抗
- ◆バッテリ制御(BMS)信号
- ⋮






Copyright© ANRITSU CORPORATION

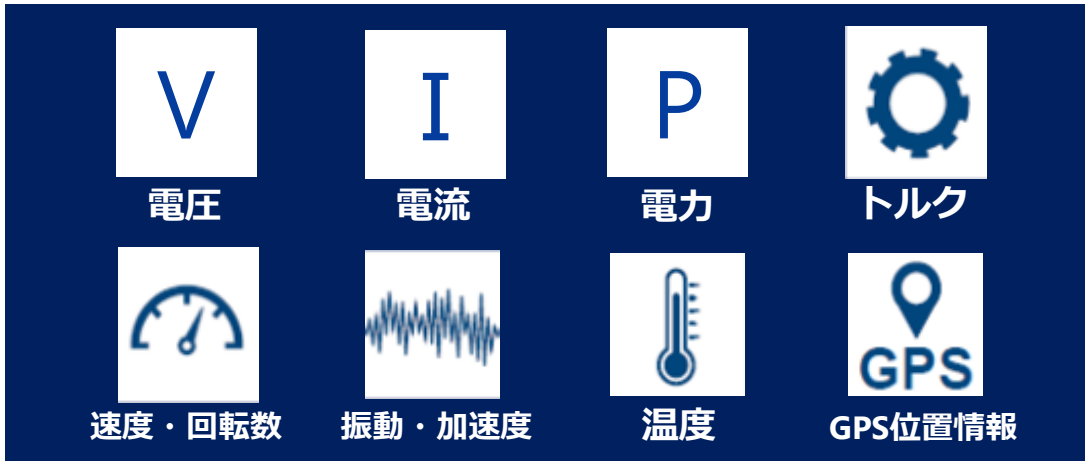
# 5-5. 製品紹介：DEWETRON社　データ収集システム

## 電圧・電流・温度・振動・ひずみなど、多様な信号を同時に測定、解析




データ収集システム（DAQ）

対応信号の一例




### ■ 特 徴

- 多様な信号を同時に測定・解析し、複雑な事象の因果関係を解明
- 用途に応じた柔軟なシステム構成が可能

### ■ 対象市場

- ANS
- 自動車
- 再生可能エネルギー

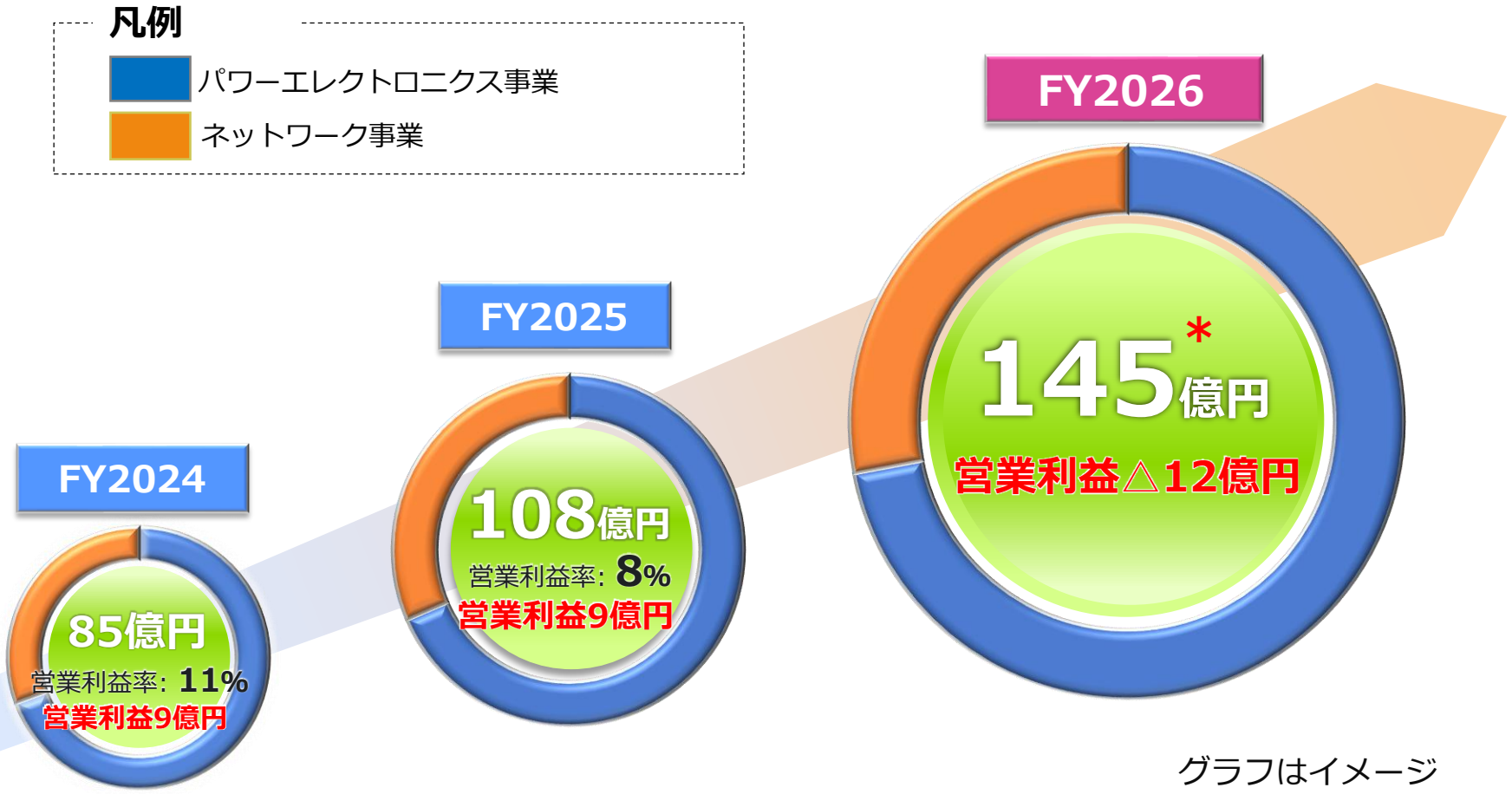



NASA Artemis II 計画への貢献


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 5-6. 環境計測事業の成長ターゲット

- グローバルな事業展開の加速
- 高砂製作所/DEWETRON社とのシナジー創出による市場開拓の加速
- パワーエレクトロニクス分野でのリーディングカンパニーを目指す




FY2030

## 売上高 300億円

- 災害に強い街づくりへの貢献
- 発展するものづくりへの貢献
- モビリティ電動化への貢献
- 再エネ活用拡大への貢献

グローバルで活躍する
パワーエレクトロニクス
企業として持続可能な
社会の実現に貢献

グラフはイメージ

＊2026年10月29日発表の数値に更新


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6. 2027年3月期第2四半期
# 連結決算概要


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

## 前年同期比　増収増益

（単位：億円）

| 国際会計基準(IFRS) | 前第２四半期連結累計期間(4-9月)実績 | 当第２四半期連結累計期間(4-9月)実績 | 前年同期比増減額 | 前年同期比増減率(%) |
|---|---|---|---|---|
| 受注高 | 550 | 878 | 328 | 60% |
| 売上高 | 517 | 693 | 176 | 34% |
| 営業利益 | 50 | 96 | 46 | 90% |
| 税引前利益 | 54 | 95 | 41 | 78% |
| 当期利益 | 38 | 66 | 28 | 72% |
| 当期包括利益 | 45 | 59 | 14 | 31% |

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

Anritsu Advancing beyond

前年同期比で、通信計測、PQAはともに増収増益、環境計測は増収減益

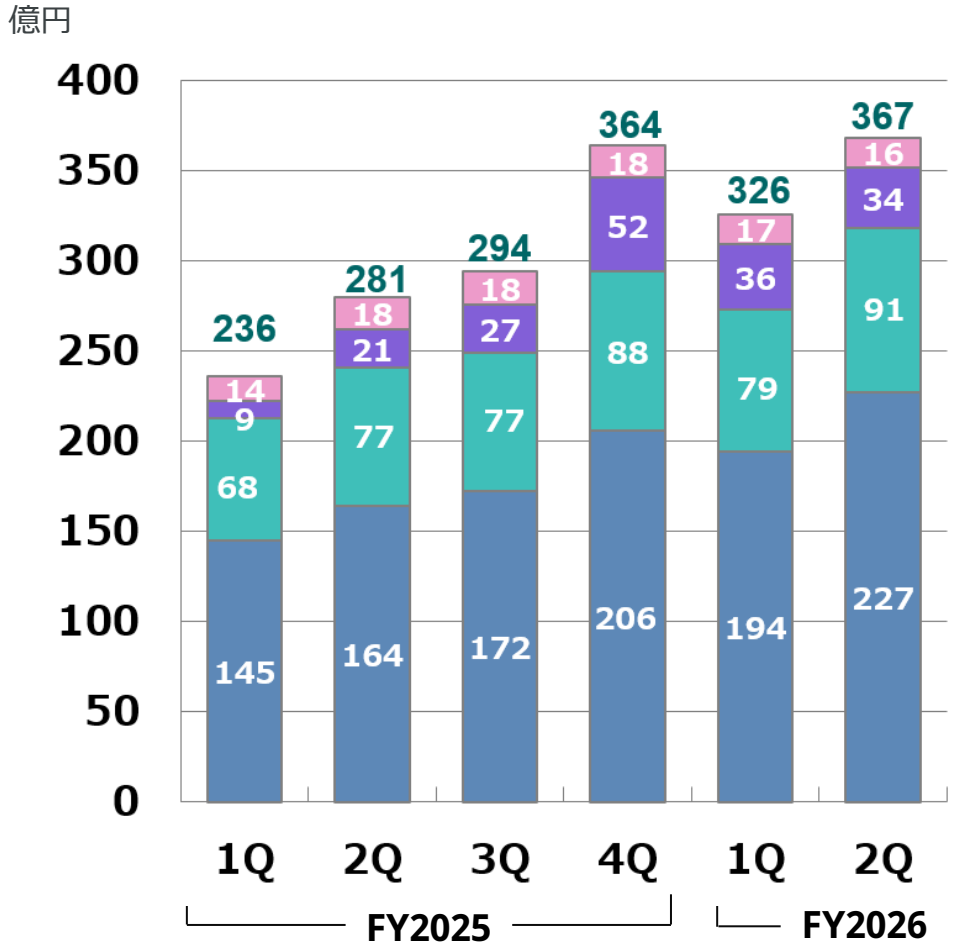
| 国際会計基準(IFRS) | | 前第２四半期連結累計期間(4-9月)実績 | 当第２四半期連結累計期間(4-9月)実績 | 前年同期比増減額 | 前年同期比増減率(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 通信計測 | 売上高 | 309 | 421 | 112 | 36% |
| | 営業利益 | 39 | 87 | 48 | 120% |
| PQA | 売上高 | 145 | 170 | 25 | 17% |
| | 営業利益 | 15 | 22 | 7 | 48% |
| 環境計測 | 売上高 | 29 | 70 | 41 | 137% |
| | 営業利益 | △ 1 | △ 13 | △ 12 | - |
| その他 | 売上高 | 33 | 33 | △ 0 | △0% |
| | 営業利益 | 7 | 11 | 4 | 54% |
| 調整額 | 営業利益 | △ 10 | △ 12 | △ 2 | - |
| 合計 | 売上高 | 517 | 693 | 176 | 34% |
| | 営業利益 | 50 | 96 | 46 | 90% |

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

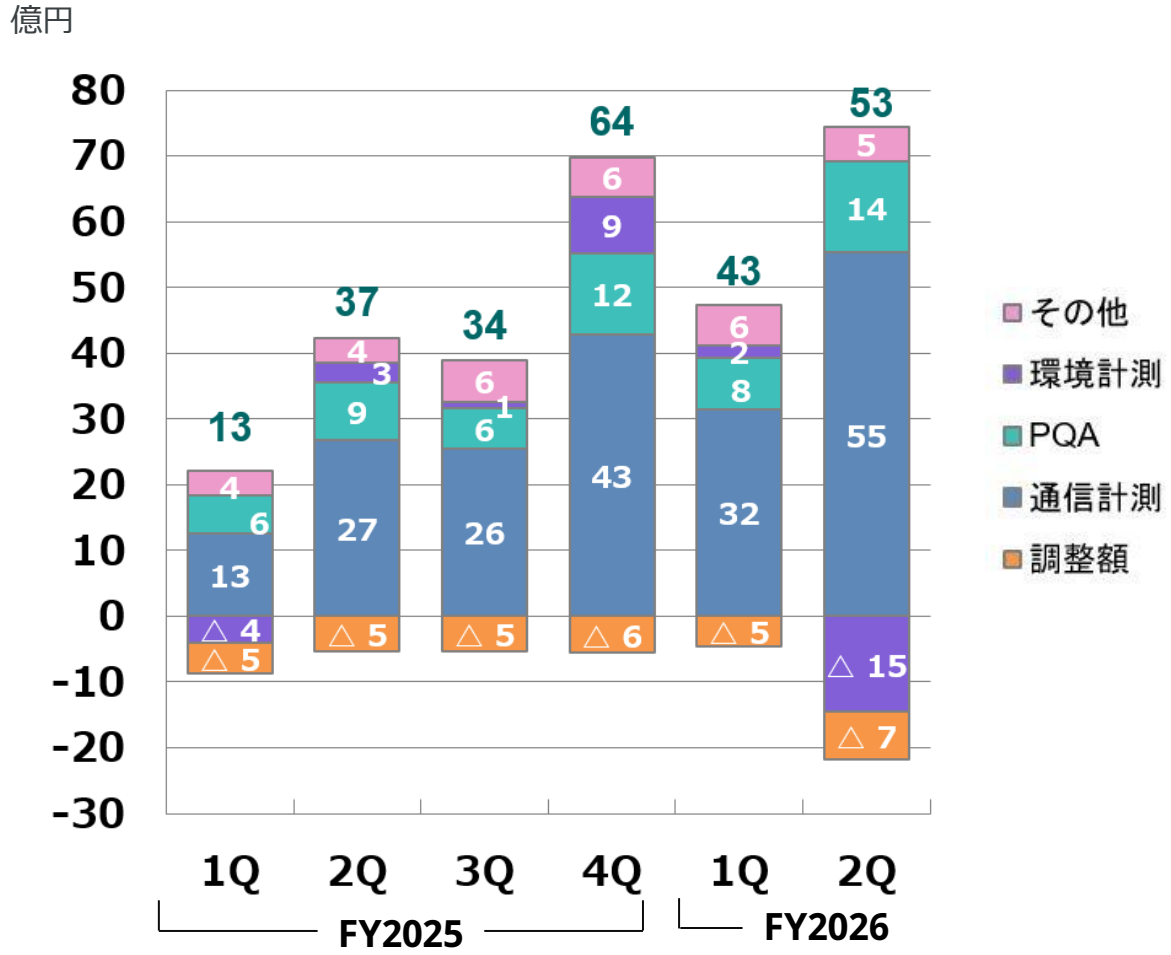

Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

2Q(7-9月)営業利益率：通信計測 24.4%、PQA 15.2%




売上高




営業利益

（注）値はそれぞれで四捨五入


Copyright© ANRITSU CORPORATION

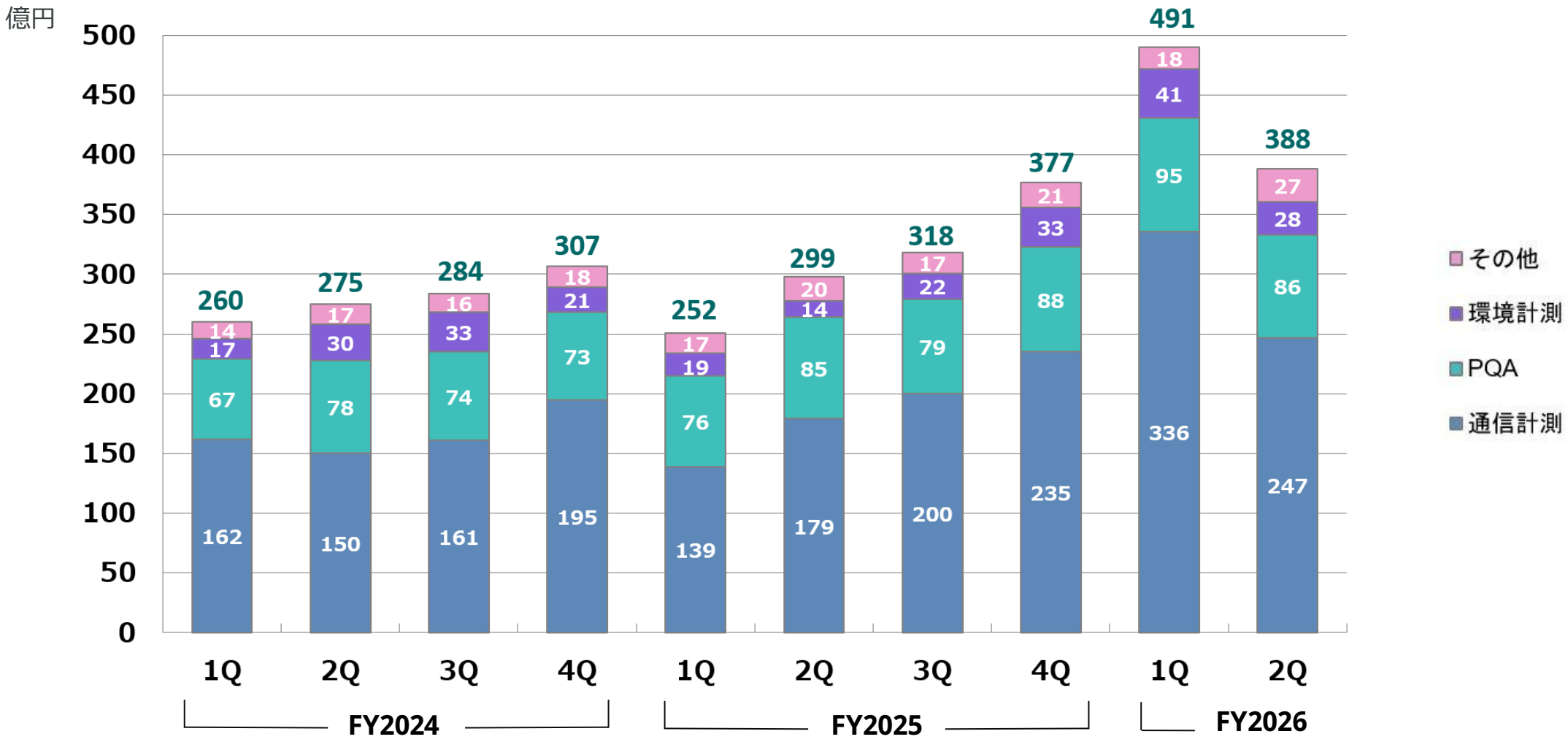
# 6-4. 事業別営業概況

| セグメント | 2027年3月期（4-9月）の状況 |
|---|---|
| 通信計測：データセンター関連を中心に需要は好調 | |
| ネットワークインフラ | 生成AI用のデータセンターの構築・高速化が加速<br>光海底ケーブルの敷設が増加傾向 |
| モバイル | 5G開発市場の投資は低調。スマホ中古再生市場での測定器需要が拡大<br>5G利活用市場では自動車やNTN、Wi-Fi 7の需要が継続 |
| エレクトロニクス | ANS*関連の需要が北米と日本で継続　＊ANS(エアロスペース＆ナショナルセキュリティ)<br>PCIeの研究開発需要が引き続き好調 |
| アジア他・日本 | データセンター市場の顧客の投資は好調<br>5Gスマホ開発市場の投資停滞 |
| 米州 | データセンター市場の顧客の投資は好調 |
| PQA：全地域で好調。特に北米地域で食肉市場を中心にX線検査需要が好調 | |
| 環境計測：EV/電池向け試験装置需要は調整局面<br>データ収集システムの需要は堅調 | |


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6-5. 受注高推移

2Q(7-9月)受注高：前年同期比　通信計測 37%増、PQA 1%増、環境計測 99%増

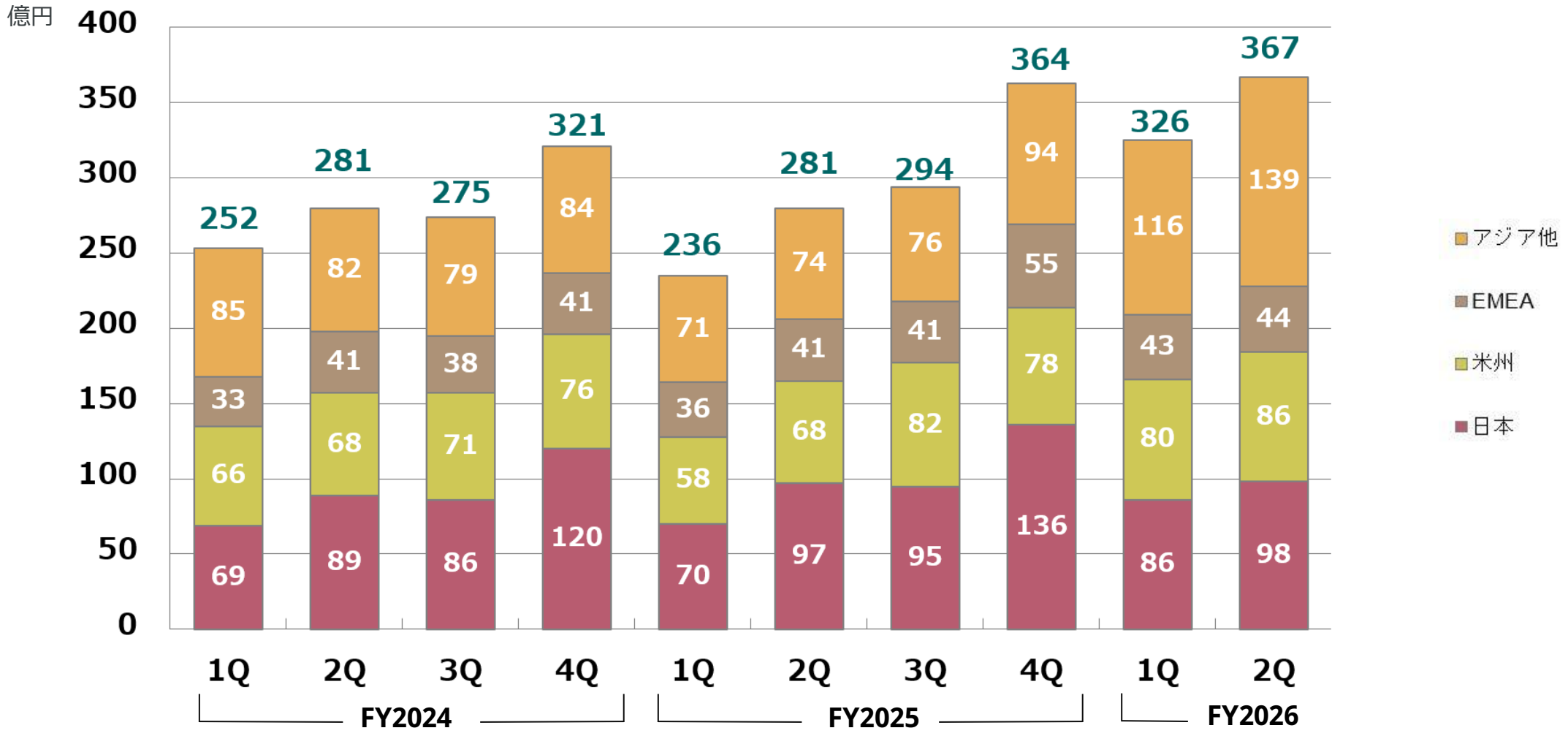



（注）値はそれぞれで四捨五入


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6-6. 地域別売上高推移

## データセンター関連需要により米国とアジアで前年同期比大幅増




（注）値はそれぞれで四捨五入


Copyright© ANRITSU CORPORATION

# 6-7. キャッシュフロー

営業CFマージン率 12.8%

**FY2026(4月～9月)**
①営業CF：　88億円
②投資CF：　△23億円
③財務CF：　△44億円

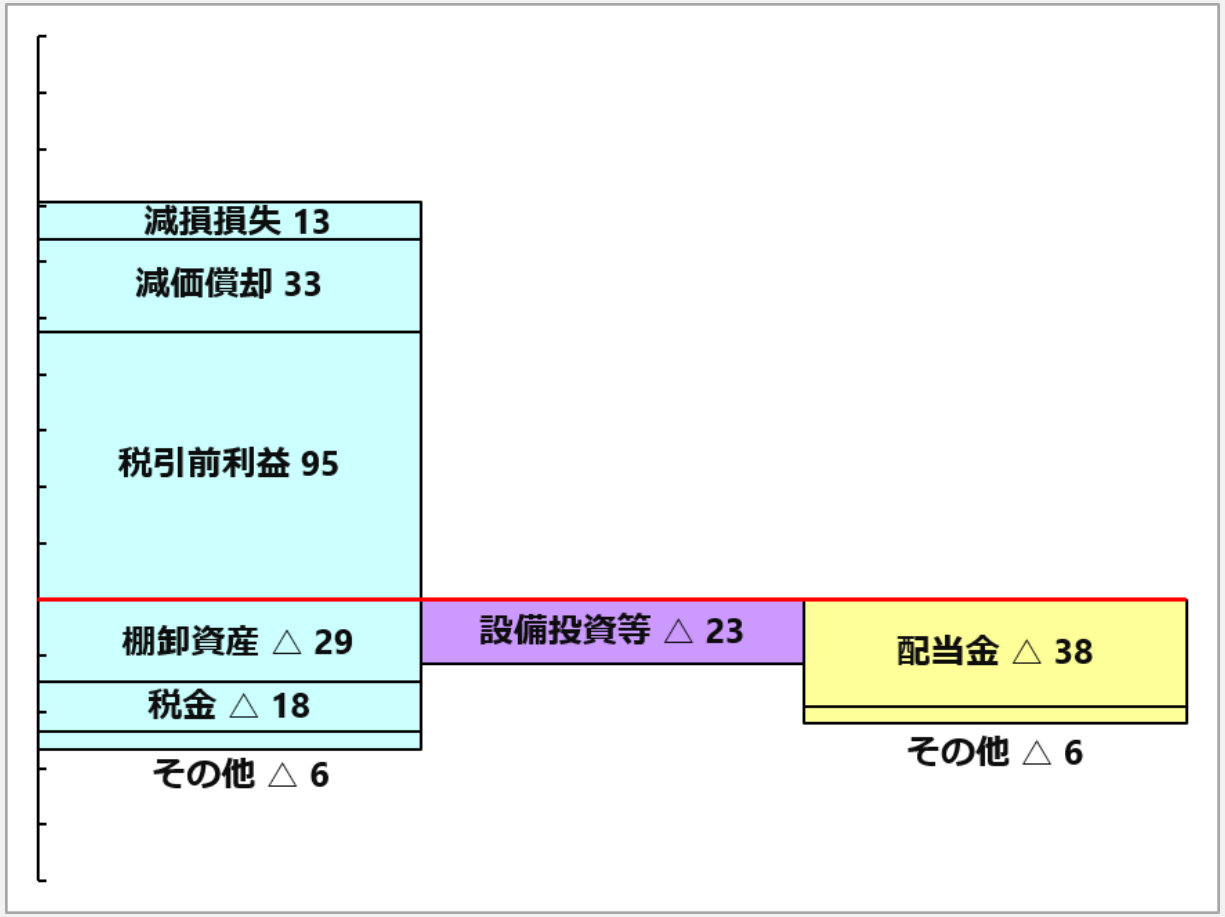
**フリーキャッシュフロー**
(①＋②)：　65億円

**現金同等物期末残高**
513億円

**有利子負債高**
70億円

（注）値はそれぞれで四捨五入

**内訳**　(単位：億円)




**営業CF　88**　　**投資CF △23**　　**財務CF△44**

# 6-8. 2027年3月期　通期業績予想（連結）

Anritsu Advancing beyond

## 4月27日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正

（単位：億円）

| 国際会計基準(IFRS) | | 2026/3期 | 2027/3期 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 通期予想 | | 前期比 | |
| | | 前期実績 | 4/27発表 | 今回発表 | 増減額 | 増減率(%) |
| 売上高 | | 1,175 | 1,400 | 1,450 | 275 | 23% |
| 営業利益 | | 148 | 200 | 220 | 72 | 48% |
| 税引前利益 | | 161 | 200 | 220 | 59 | 36% |
| 当期利益 | | 117 | 150 | 160 | 43 | 37% |
| 通信計測 | 売上高 | 688 | 850 | 900 | 212 | 31% |
| | 営業利益 | 108 | 165 | 200 | 92 | 85% |
| PQA | 売上高 | 310 | 330 | 340 | 30 | 10% |
| | 営業利益 | 33 | 40 | 42 | 9 | 27% |
| 環境計測 | 売上高 | 108 | 160 | 145 | 37 | 34% |
| | 営業利益 | 9 | 10 | △ 12 | △ 21 | - |
| その他 | 売上高 | 69 | 60 | 65 | △ 4 | △5% |
| | 営業利益 | 20 | 15 | 20 | 0 | 1% |
| 調整額 | 営業利益 | △ 21 | △ 30 | △ 30 | △ 9 | - |

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

（参考）FY25 為替レート　：１米ドル151円、1ユーロ175円
FY26 期初想定為替レート　：１米ドル150円、1ユーロ175円
FY26 下期想定為替レート　：１米ドル150円、1ユーロ175円


Copyright© ANRITSU CORPORATION

Anritsu

Advancing beyond